Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン

経済的に困難な状況にある高校生と保護者への調査結果

「給付型緊急子どもサポート ～高校生活応援キャンペーン～」の
受給高校生459人、保護者411人への調査から



公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
2018年12月4日発表

目次

はじめに 3

Ⅰ. 調査概要 4

Ⅱ. 調査結果の概要 4

Ⅲ. 調査の項目別の結果 5

1. 調査対象世帯の構成 5
2. 世帯の経済状況 6
3. 体験の制約や所有物の欠如 9
4. 高校生の生活について 13
5. 高校卒業後の進路について 21
6. 高校生活にかかる経費の家計負担と高校生等奨学給付金 24
7. 経済的に困難な状況にある世帯の保護者や高校生が求める支援 29

Ⅳ. 提言 33

Ⅴ. 結び 35

調査から明らかになったこと 36

「給付型緊急子どもサポート ～高校生活応援キャンペーン～」 概要 38

「給付型緊急子どもサポート ～高校生活応援キャンペーン～」 アンケート用紙 39

経済的に困難な状況にある高校生と保護者への調査結果

「給付型緊急子どもサポート ～高校生活応援キャンペーン～」の受給高校生459人、保護者411人への調査から

はじめに

子ども支援専門の国際NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（以下、セーブ・ザ・チルドレン）は、子どもの貧困問題解決への取り組みの一環として、宮城県石巻市において給付金事業を実施しました。今回は、その受給世帯の高校生と保護者を対象に、子どもの権利条約で規定されている、発達のための十分な生活水準に対する権利、教育への権利、余暇や文化的・芸術的な活動に参加できる権利など※1に着目し、高校生の生活実態を把握するためのアンケート調査を実施しました。

昨今、義務教育である小中学校を除く子どもに関する施策として、幼児教育・保育の無償化や大学進学のための奨学金などが、国の重点的な取り組みとして掲げられている一方で、高校生への支援については十分な議論や対策が取られていない状況です。高校生活にかかる費用は小中学生に比べて高く※2、公的支援も薄くなるため、家計の負担が増大するにもかかわらず、高校生を対象として国や自治体が実施する貧困対策は少ないのが現状です。

セーブ・ザ・チルドレンはこれらの状況を踏まえ、経済的に困難な状況にある高校生のいる世帯の家計を支えるための給付金事業「給付型緊急子どもサポート ～高校生活応援キャンペーン～」を実施し、その受給世帯の高校生と保護者を対象に、高校生の生活実態を把握するためのアンケート調査を実施しました。本調査は、東京都の「子供の生活実態調査」（2016年）等を参考に、専門家の協力を得て設計されています。

本調査の結果、経済的に困難な状況にある高校生世帯の厳しい生活状況や、高校生がさまざまな機会の制約を受けていること、必要とされる支援がわかりました。セーブ・ザ・チルドレンは、この結果からまとめた提言に基づいて、国や地方自治体に対する働きかけを行っていきます。



調査設計および分析協力：
首都大学東京　人文社会学部教授 兼 子ども・若者貧困研究センター長
阿部 彩 氏

※1 子どもの権利条約/民間訳
27条（生活水準への権利）、28条（教育への権利）、31条（休息・余暇、遊び、文化的・芸術的生活への参加）
http://www.savechildren.or.jp/about_sc/kodomono_kenri/minkan.html

※2 文部科学省「平成28年度子供の学習費調査」による保護者が支出した年間学校教育費
公立小学校60,043円、公立中学校133,640円、公立高等学校（全日制）275,991円

Ⅰ. 調査概要

1. 調査の目的

宮城県石巻市においてセーブ・ザ・チルドレンが実施した給付金事業「給付型緊急子どもサポート ～高校生活応援キャンペーン～」の対象者である高校生とその保護者が抱える負担や制約を明らかにし、必要とされる支援の内容を把握すること。また、子どもの貧困対策における高校生に対する支援の充実に向け、本調査結果を国、地方自治体における政策提言につなげること。

2. 主な調査内容

経済的に困難な状況にある高校生の生活の状況、高校生活にかかる経済的な負担、保護者と高校生が必要とする支援内容等

3. 調査の実施状況

調査地域　：　宮城県石巻市

調査対象　：　「給付型緊急子どもサポート ～高校生活応援キャンペーン～」※(実施期間は2018年6月～9月)
受給者(保護者411人、高校生459人)
なお、本キャンペーンの受給者は、経済的困窮に関する一定の条件を満たしている。
※キャンペーン概要はP38

調査方法　：　各世帯に保護者用・高校生用のアンケートを郵送し、保護者・高校生それぞれ自記式にて任意回答の上、別々の封筒に入れて封をし、「給付振込依頼書」などとともに返送用封筒にて返送。

回収期間　：　2018年7月2日～2018年8月31日

有効回答数：　保護者票　407件　(回答率99.0%)
高校生票　449件　(回答率97.8%)

4. 調査の実施主体

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

Ⅱ. 調査結果の概要

1. 世帯の経済状況に関して、80.3%の保護者が現在の暮らしの状況について「大変苦しい」「やや苦しい」と回答した。「大変苦しい」と回答した保護者は、子どもが中学生の時から現在になると、約2倍に増加している。また、53.6%が現在赤字で生活しており、59.0%の保護者は家族が必要とする食料を経済的な理由で購入できないことがあった。

2. 体験の制約や所有物の欠如に関して、保護者の75.2%が1年に1回程度の家族旅行を、67.8%が子どもを習い事に通わせることを、65.6%が子どもを塾に通わせることを、「経済的にできない」と回答した。53.8%の世帯には、急な出費のための5万円以上の貯金がないということがわかった。また、高校生の51.2%がインターネットにつながるパソコンを、47.7%が自分に投資するお金を、「持ちたいが持っていない」と回答した。

3. 23.8%の保護者が、子どもの高校就学について「経済的な理由により高校就学を続けられない可能性がある」と回答し、12.0%の高校生が、経済的な理由で学校をやめたくなるほど悩んだことがあった。

4. 高校卒業後の進路に関して、53.1%の保護者が大学またはそれ以上の教育を「経済的に受けさせられない」と回答し、26.1%の高校生が「進学したいが、経済的に不安がある」と回答した。進学したくない高校生のうち41.7%が「経済的な理由で、高校を卒業したらすぐに就職したい」と回答した。また、高校卒業後、経済的に進学が難しい世帯で、56.9%の高校生が「進学したくない」と回答し、41.3%の高校生が進学を希望していることがわかった。

5. 61.2%の保護者が、高校生等奨学給付金を利用したことがあるか、または申請中・申請予定であった。「利用したことがある」と回答した保護者のうち55.9%が、高校生等奨学給付金によって学校にかかる経費をまかなえていないことがわかった。また、「利用したことがない」「わからない」と回答した保護者のうち、52.4%が「高校生等奨学給付金を知らなかった」という理由を選択した。

6. 高校生と保護者のいずれも、就学にかかる費用が軽減されることや学習支援が受けられること、スポーツ・文化活動が無料でできる場所を求めている。高校生は他にも、就職のための支援や家を出て暮らす時の支援を求めていることがわかった。

III. 調査の項目別の結果

1. 調査対象世帯の構成

1-1 世帯の状況

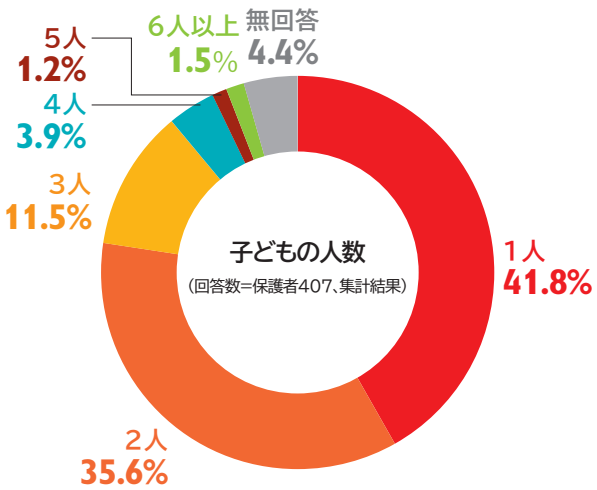
本調査に回答した保護者407人のうち、ひとり親は366人(89.9%)、ふたり親は34人(8.4%)であった。

1-2 子どもの人数

本調査に回答した世帯の子どもの人数は、「1人」という回答が最も多く170世帯(41.8%)、次いで「2人」が145世帯(35.6%)、「3人」が47世帯(11.5%)だった。

グラフ1

【保護者】あなたの世帯の子どもの人数をお教えください。



数値の見方

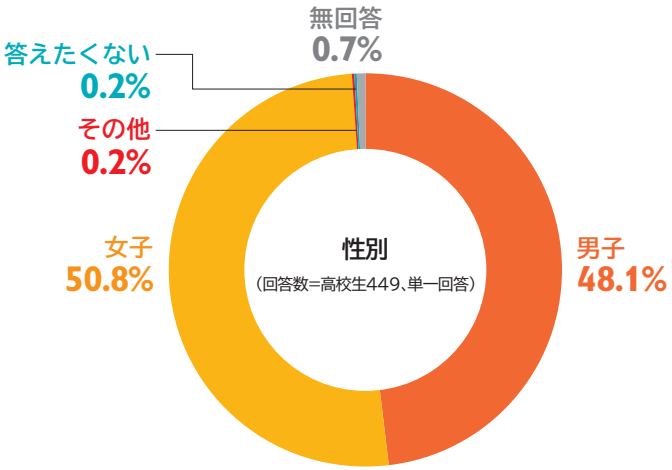
本文およびグラフの数値は、その表章単位に合わせて計算された数値を四捨五入しているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。
複数回答の場合は、%合計は100%を超えている。

1-3　高校生の性別

本調査に回答した高校生449人のうち、男子は216人（48.1%）、女子は228人（50.8%）であった。

グラフ2

【高校生】あなたの性別を教えてください。

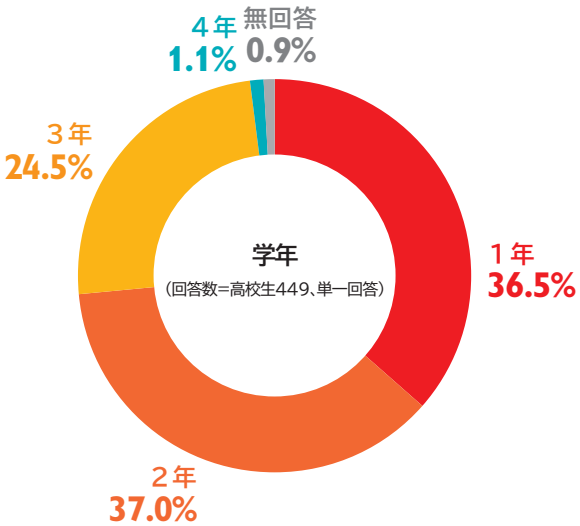


1-4　高校生の学年

本調査に回答した高校生449人のうち、1年生は164人（36.5%）、2年生は166人（37.0%）、3年生は110人（24.5%）、4年生は5人（1.1%）であった。

グラフ3

【高校生】あなたの学年を教えてください。



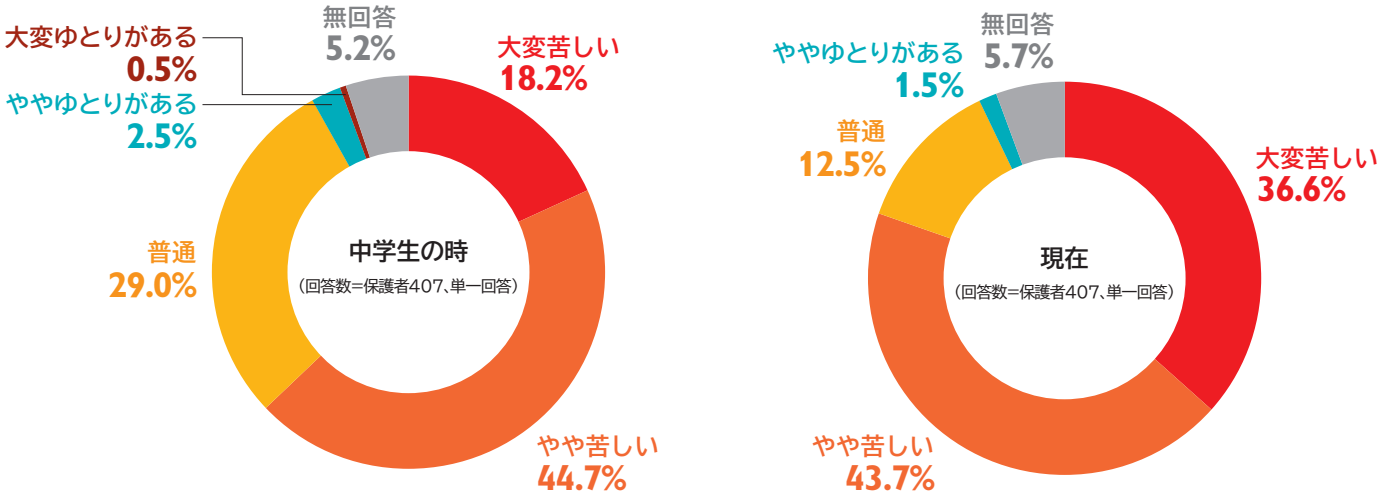
2.　世帯の経済状況

2-1　子どもが中学生の時と現在の暮らしの状況

保護者に、子どもが「中学生の時」と「現在」について「暮らしの状況をどのように感じていますか」と聞いたところ、本調査に回答した407人のうち、327人（80.3%）が現在「大変苦しい」「やや苦しい」と回答した。さらに、子どもが中学生の時に「大変苦しい（かった）」と回答した保護者は74人（18.2%）であったが、現在「大変苦しい」と回答した保護者は149人（36.6%）と約2倍に増加している。

＊本調査における「お子さん」とは、高校生活応援キャンペーンの対象の高校生を指します。

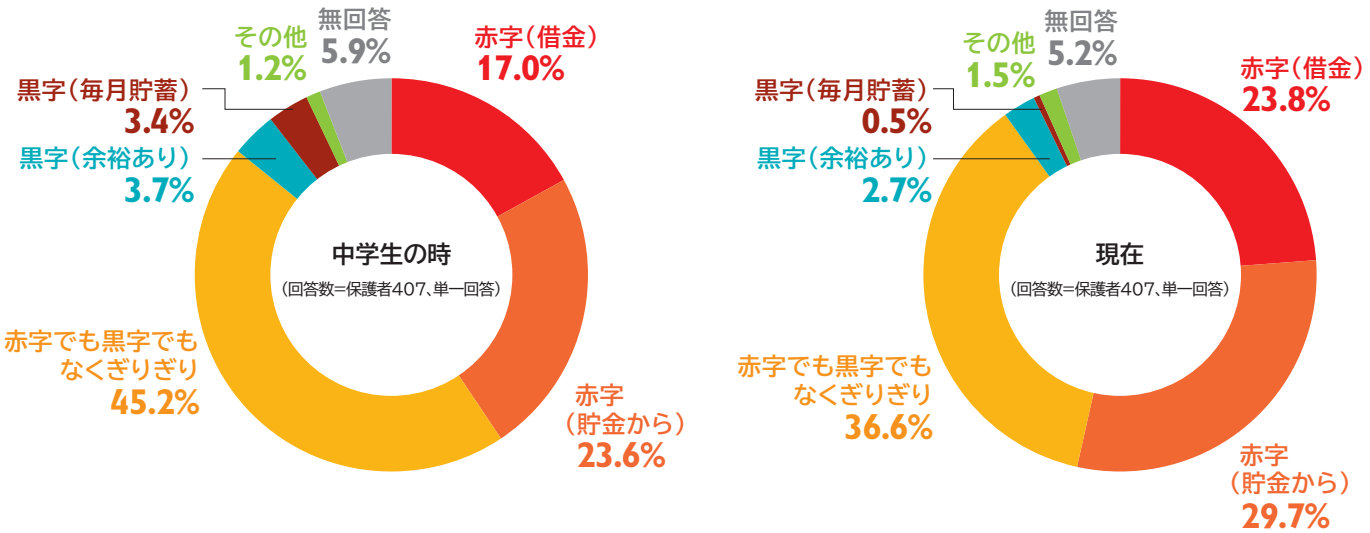
グラフ4　【保護者】暮らしの状況をどのように感じていますか。お子さんが中学生の時と現在についてそれぞれお答えください。



2-2　子どもが中学生の時と現在の家計の状況

保護者に、子どもが「中学生の時」と「現在」の家計の状況を聞いたところ、本調査に回答した407人のうち、「赤字であり、借金をして生活している」「赤字であり、貯蓄を取り崩している」と回答した保護者は、子どもが中学生の時は165人（40.5%）、現在は218人（53.6%）であった。

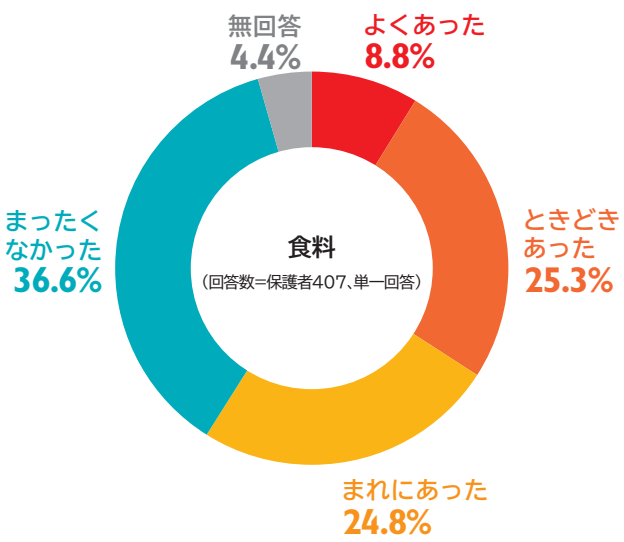
グラフ5　【保護者】ご家庭の家計について、最も近いものをお答えください。お子さんが中学生の時と現在についてそれぞれお答えください。

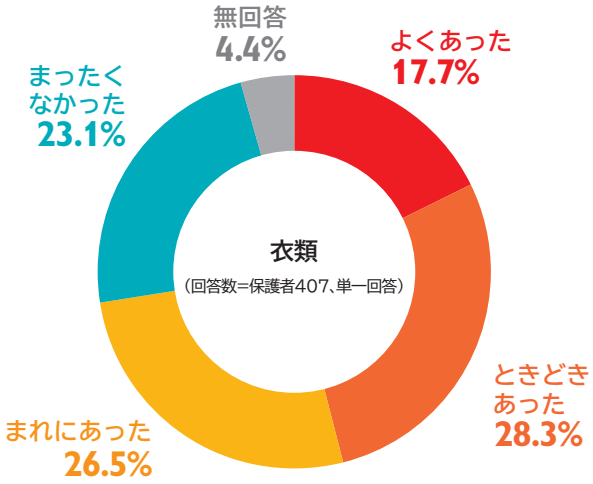


2-3　経済的理由で食料や衣類が買えなかった経験の有無

保護者に、過去1年の間において、家族が必要とする食料や衣類を経済的な理由で購入できないことがあったかを聞いたところ、本調査に回答した407人のうち、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」と回答した保護者は、食料に関しては240人（59.0%）、衣類に関しては295人（72.5%）であった。

グラフ6　**【保護者】あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料や衣類を買えないことがありましたか。**





保護者の声

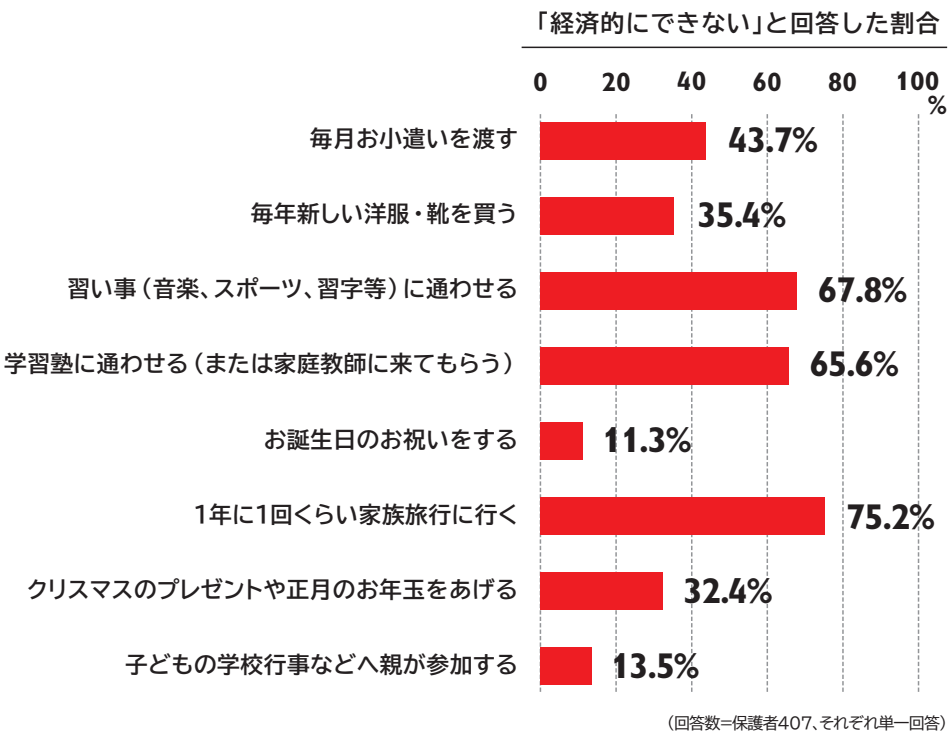
- 公立とはいえ、子どもが義務教育から高校に入ってから出費が嵩み、経済的に苦しい。
- 子ども達が大きくなるにつれ出費も多くなり、現在は貯金を崩しながら生活しています。大変なのは子ども達も分かっていますが、それがどの程度なのかまでは分からずにいます。子ども達には周りの子と同じようにしてあげたいと思う親心ですが、正直しんどい今日この頃。蓄えはなくなり、将来に不安は大きいです。
- 毎月の給料では生活が困難で、その上何かと出費が多く（毎日のお弁当のおかずや飲み物にもかなりお金が必要）、その為クレジットカードのキャッシングなどで何とか乗り越えていますが、今の収入ではリボ払いでの支払いです。その為、支払いがなくなるというゴールが見えず心配です。それでも頑張って生きています。
- 子どもが1人だとか中学生くらいまでなら手当などで人並みに生活できると思いますが、子ども2人が高校生になるとか大学に入るとなると正直大変です。
- 震災前も生活は大変でしたが、震災後は更に悪化し、生活が困窮している。高校を卒業したら利用した奨学金の返済も始まるので、これから生活がどうなっていくのか考えると頭痛がひどくて夜も寝られなくなる。
- 毎日の食事に困るという訳ではありません。洋服だって安い物を買えば新しい物が着られる。ただ学校で友達からからかわれない為に同じ物を揃える時に、高くて困るという事が度々あります。本人も高いことは理解してくれているので「しばらくおかずなしでいいよ」と、健気な事を言ってくれます。

3. 体験の制約や所有物の欠如

3-1 子どもにかかる費用や体験の制約

保護者に、子どもにしていることについて聞いたところ、本調査に回答した407人のうち、「経済的にできない」と回答した人が最も多かったのは、「1年に1回くらい家族旅行に行く」が306人(75.2%)であった。次いで、「習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる」が276人(67.8%)、「学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)」が267人(65.6%)であった。

グラフ7 【保護者】あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。



(回答数=保護者407、それぞれ単一回答)

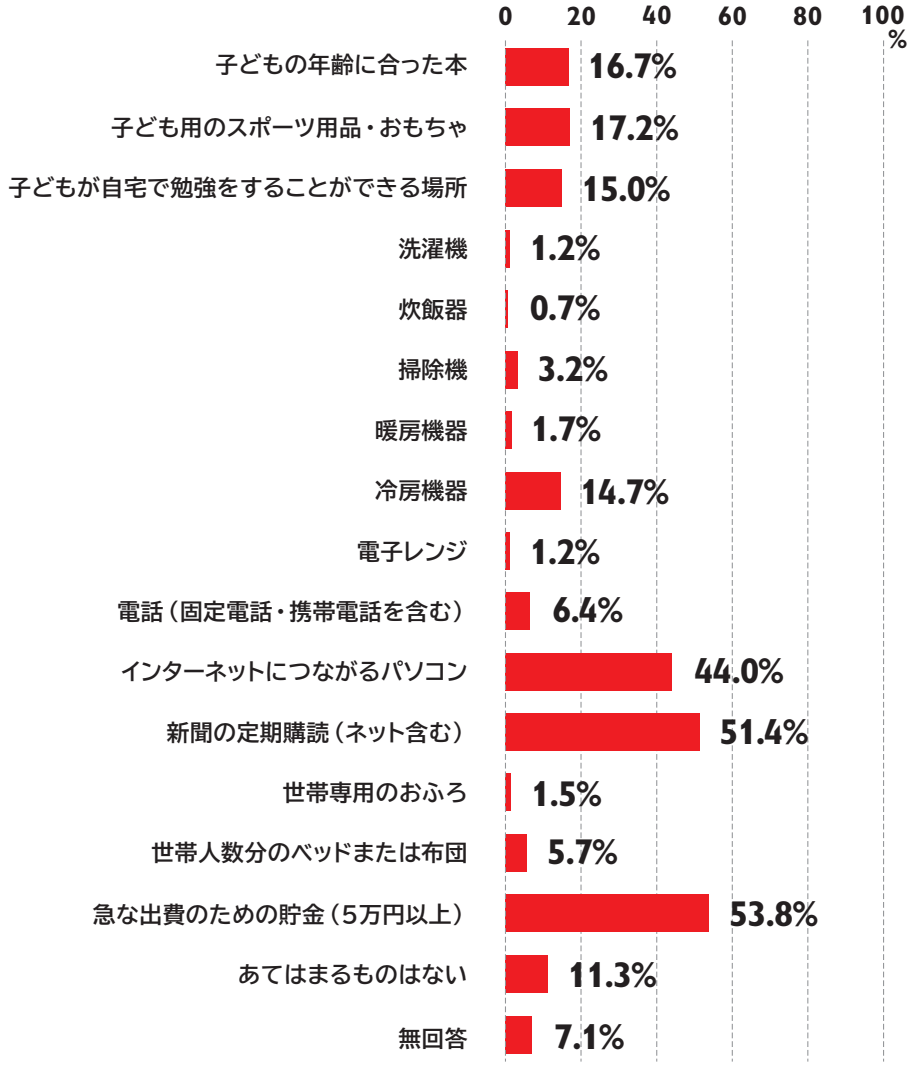
保護者の声

- 経済的な理由で子ども達の病院や美容室、衣服や学校用品を十分に与えられない。塾に行きたいと子どもに言われても行かせてあげられない。進学もさせてあげられない状況である。
- お小遣いをあげられていない。部活をさせられない(経済的な理由で運動部をやめた)。
- 今のところその日暮らしで余裕のある月がなく、一日一日何とか過ごしているような感じ。子どもも周りのみんなのように遊びに行ったりできず、少しかわいそうな…。

3-2 世帯の所有物の欠如

保護者に、「経済的理由のためにあなたの世帯にないもの」について聞いたところ(複数回答)、本調査に回答した407人のうち、「急な出費のための貯金(5万円以上)」が219人(53.8%)と最も多く、次いで「新聞の定期購読(ネット含む)」が209人(51.4%)、「インターネットにつながるパソコン」が179人(44.0%)であった。

グラフ8 【保護者】次のもののうち、
経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。



(回答数=保護者407、複数回答)

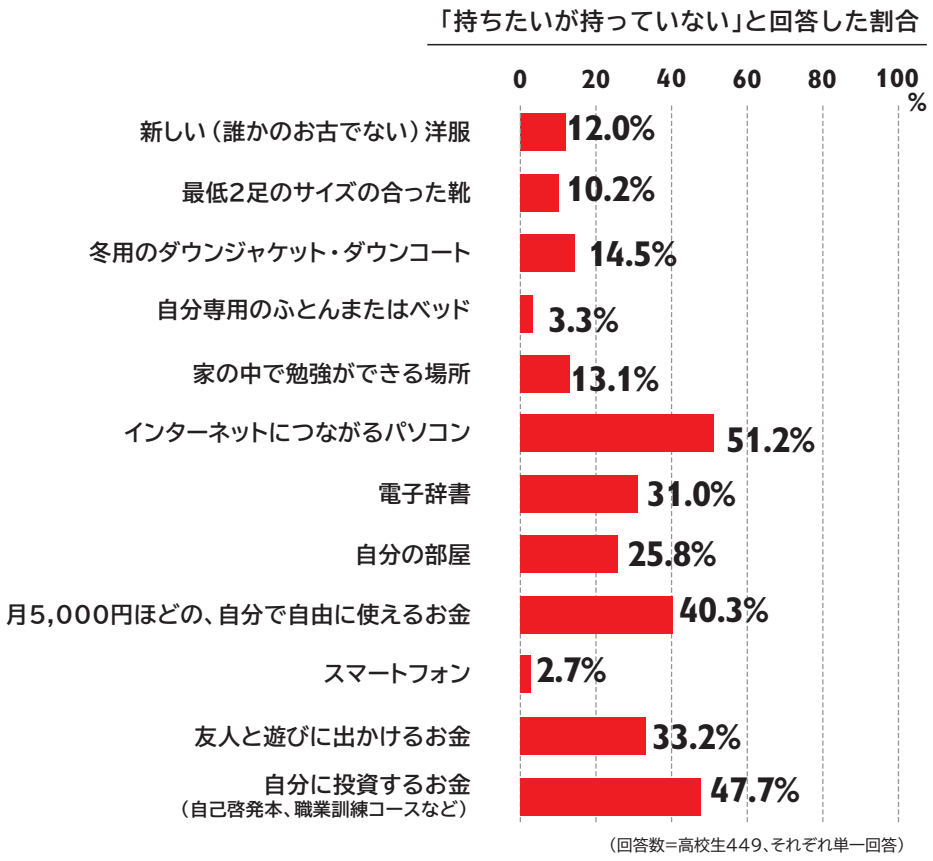
保護者の声

- ひとり親世帯なので私が何かあった時に生活するのが心配です。貯蓄もできていない状況ですので、経済的な心配もあります。
- 娘と息子との話や友達家族などの話を聞き、うちでは他の家庭でしていることを我慢させなくてはいけないことも多く、心が痛みます。

3-3　高校生の所有物の状況

高校生に、物品について「持っている」「持ちたいが持っていない」「持ちたくない/いらない」の3つの選択肢を用いて聞いたところ、本調査に回答した449人のうち、「持ちたいが持っていない」と回答した割合が最も高かった項目は「インターネットにつながるパソコン」で、230人(51.2%)であった。次いで、「自分に投資するお金(自己啓発本、職業訓練コースなど)」が214人(47.7%)、「月5,000円ほどの、自分で自由に使えるお金」が181人(40.3%)であった。

グラフ9　【高校生】あなたは、次の物品を持っていますか。

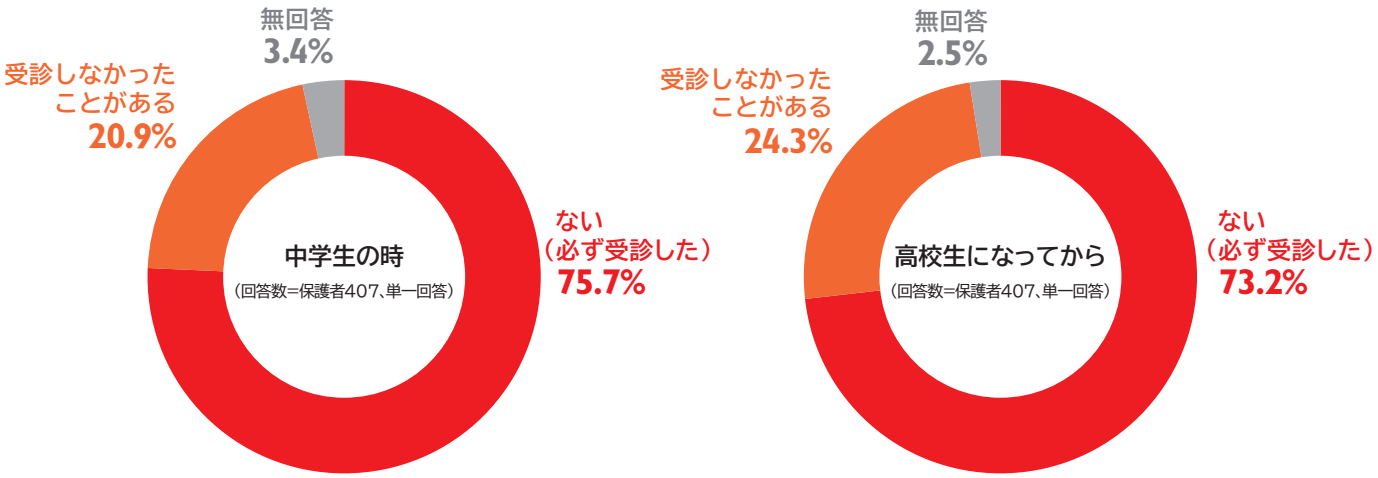


（回答数=高校生449、それぞれ単一回答）

3-4 医療へのアクセス

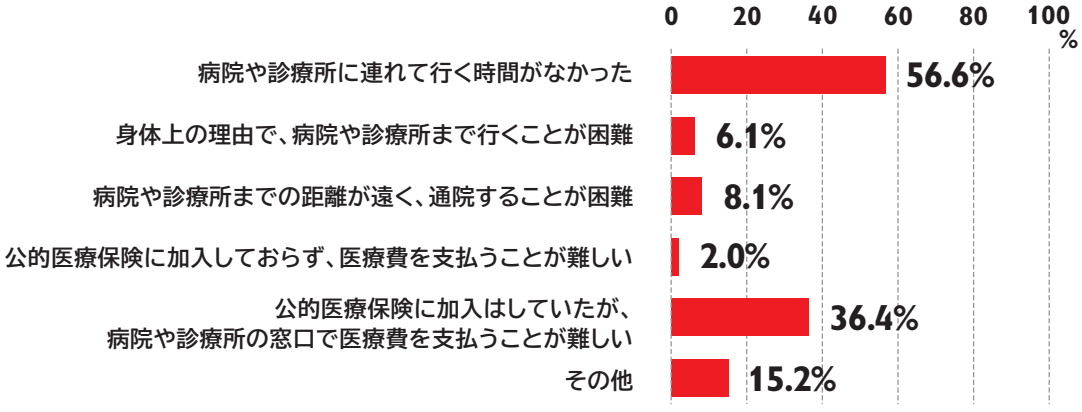
保護者に、子どもが「中学生の時」と「高校生になってから」について「お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったのに、実際には受診させなかったことがありますか」と聞いたところ、本調査に回答した407人のうち、中学生の時に「受診しなかったことがある」と回答した保護者は85人（20.9%）、高校生になってからは99人（24.3%）であった。

グラフ10 **【保護者】お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったのに、実際には受診させなかったことがありますか。中学生の時と高校生になってからについて、それぞれお答えください。**



高校生になってから「受診しなかったことがある」と回答した保護者99人にその理由を聞いたところ（複数回答）、「病院や診療所に連れて行く時間がなかったため」が56人（56.6%）、「公的医療保険に加入はしていたが、病院や診療所の窓口で医療費を支払うことが難しいため」が36人（36.4%）であった。

グラフ11 **【保護者】お子さんが高校生になってから「受診しなかったことがある」と答えた方は、その理由を教えてください。**



（回答数=保護者99、複数回答）

保護者の声

- 子どもとの生活を成立させるために働くが、子どもを通院させたり塾に通わせたりするために都合を合わせると、生活費がきつくなります。
- 医療費（子ども）も掛かるようになり、全てが苦しい状態です。児童手当、医療費等については18才まで延長してほしい（高校卒業まで）。

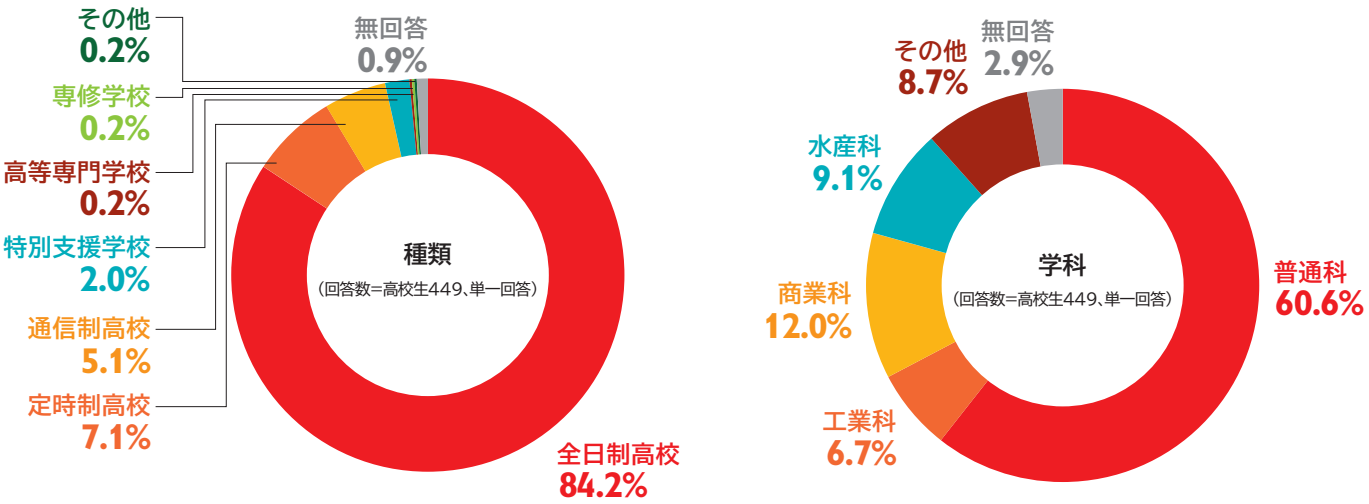
4. 高校生の生活について

4-1 学校の種類と学科

本調査に回答した高校生449人のうち、378人（84.2%）が全日制高校に、32人（7.1%）が定時制高校に、23人（5.1%）が通信制高校に通っている。

また、高校生449人のうち、272人（60.6%）が普通科、54人（12.0%）が商業科、41人（9.1%）が水産科に通っている。

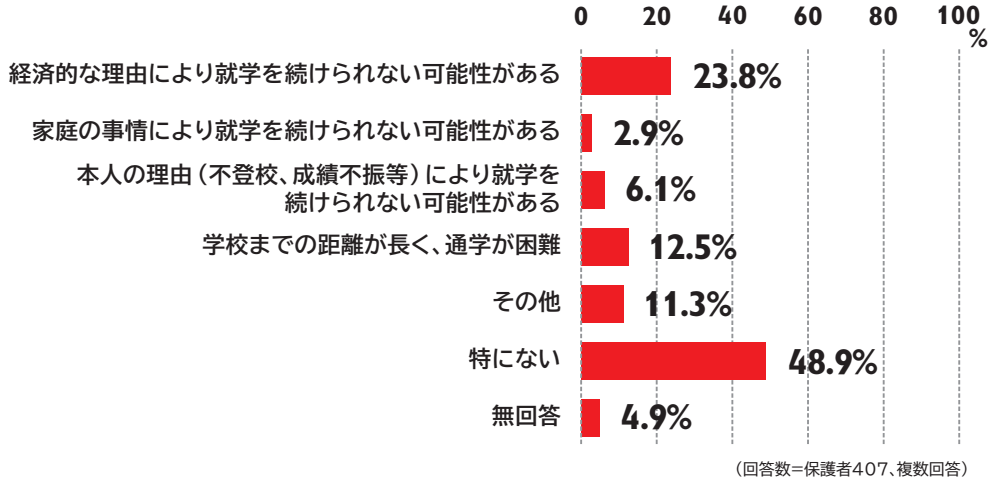
グラフ12　【高校生】あなたが通っている高等学校等について、教えてください。



4-2　高校就学に関する保護者の悩み

保護者に、「お子さんの高校就学について、心配なことはありますか」と聞いたところ（複数回答）、本調査に回答した407人のうち、「特にない」が199人（48.9%）で最も多かったが、次に多かったのが「経済的な理由により就学を続けられない可能性がある」で97人（23.8%）であった。

グラフ13　【保護者】お子さんの高校就学について、心配なことはありますか。



（回答数＝保護者407、複数回答）

保護者の声

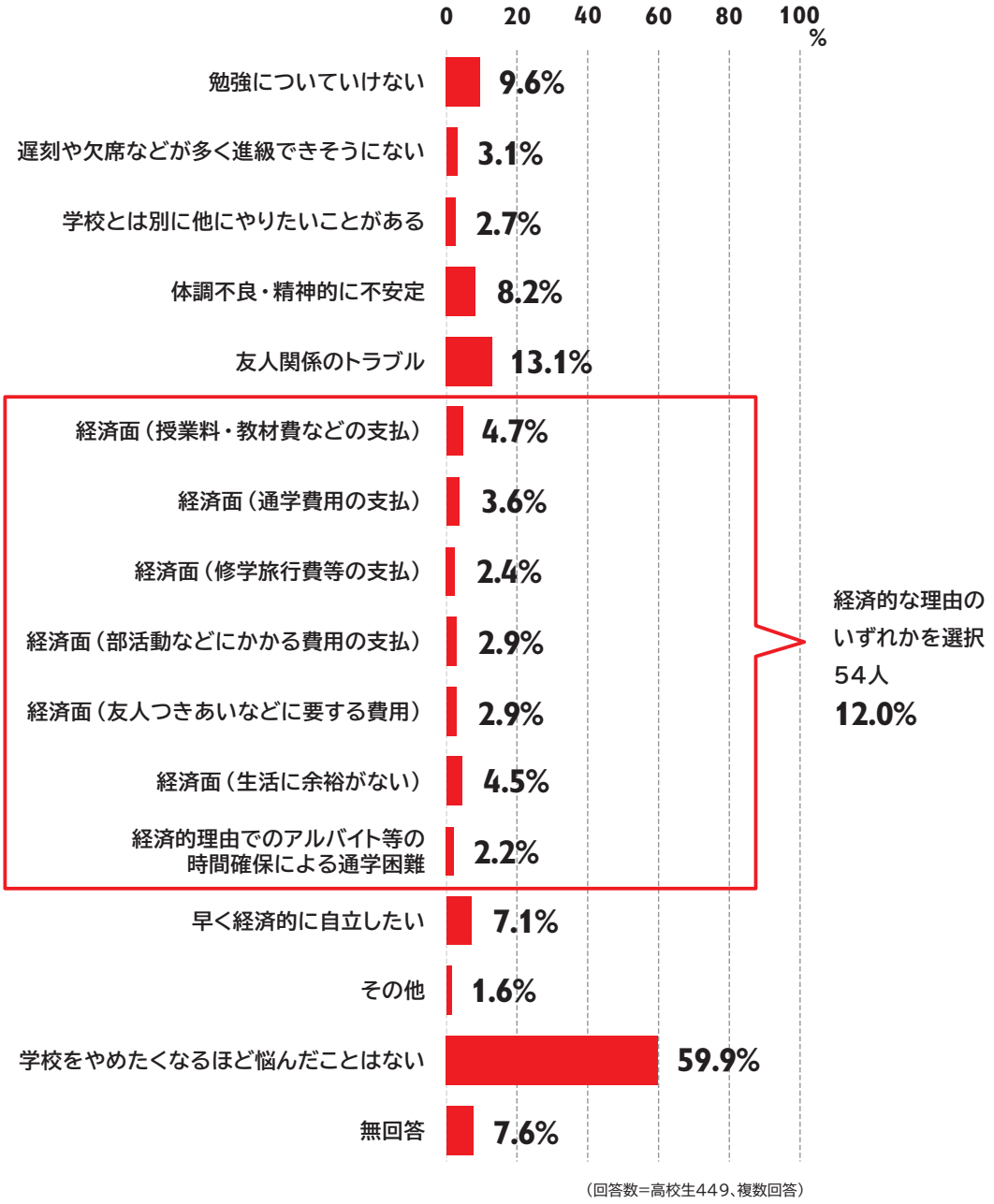
- 就学を続けられるように何とか1ヶ月1ヶ月踏ん張ってはいるが、通学費用などかかるものも多く、日々不安を感じる。
- 制服や靴がボロボロでも、なかなか新しい物を買ってあげられない。せめて首回りが擦れてボロボロになっているブラウスだけでも買ってあげます。
- 模試や部活動などにも毎月経費がかかり、頭を痛めている。平日だけでなく土日もお弁当を持参するので大変である。
- 今回長男の高校入学で授業料は免除になったのですが、それ以外の学校でかかる費用が大きく、毎年1回の徴収金（5万くらい）とはいえ、ひとり親世帯での支払いは大変だなと思いました。学校徴収金も何らかの形で支援等していただけるようになれば助かるのではないかと思いました。

4-3　高校生の悩み

高校生に、「学校をやめたくなるほど悩んだことがありますか」と聞いたところ（複数回答）、本調査に回答した449人のうち、269人（59.9%）は「学校をやめたくなるほど悩んだことはない」と答えているものの、146人（32.5%）は何かしらの理由で悩んだことがあると回答した。

悩んだ理由は「友人関係のトラブル」が59人（13.1%）と最も多く、次いで「勉強についていけない」が43人（9.6%）であったが、経済的な理由のいずれかを選択した高校生は54人（12.0%）であった。

グラフ14 【高校生】あなたはこれまでに以下のような理由で、学校をやめたくなるほど悩んだことがありますか。



（回答数=高校生449、複数回答）

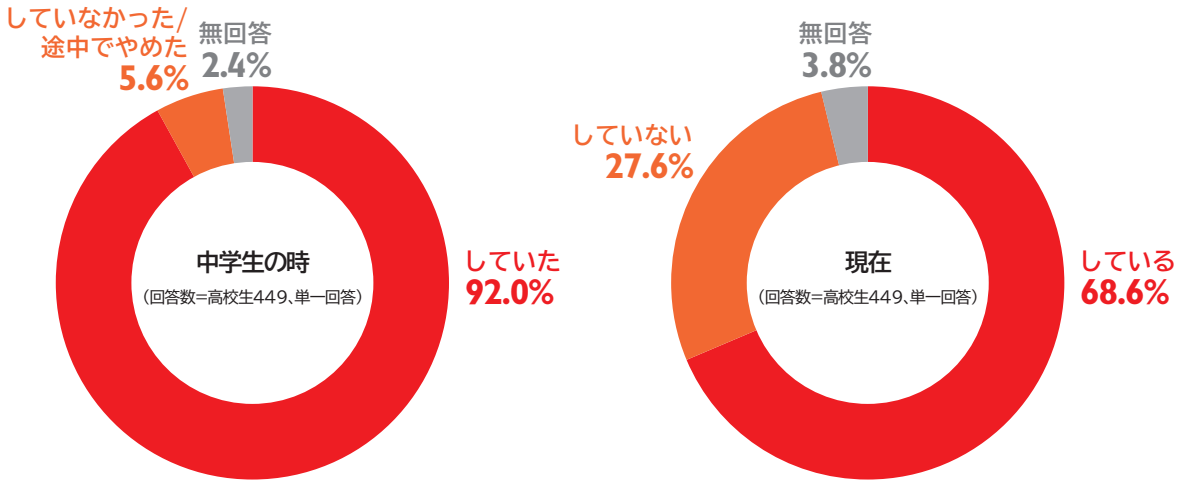
高校生の声

- 進学したいが経済的に厳しいと言われた。
- 親が授業料を払っていけるか心配です。
- 高校での勉強についていけるか不安です。今はまだ大丈夫ですが、これから多くのことを学ぶのでいつからか追いつけなくなってしまうのではと思っています。

4-4　部活動の参加状況

高校生に、「中学生の時」に部活動をしていたか、また「現在」しているかどうかを聞いたところ、本調査に回答した449人のうち、中学生の時は「していた」が413人（92.0%）、「していなかった/途中でやめた」が25人（5.6%）であり、現在は「している」が308人（68.6%）、「していない」が124人（27.6%）であった。

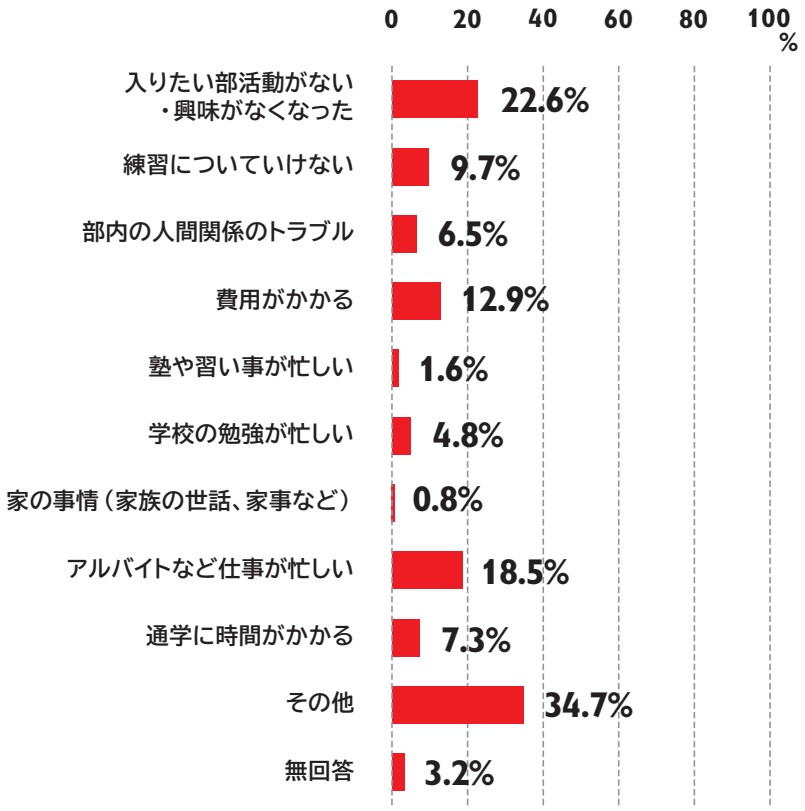
グラフ15　**【高校生】あなたは、中学生の時部活動をしていましたか。また、現在部活動をしていますか。**



また、現在部活動を「していない」124人にその理由を聞いたところ（複数回答）、「その他」が最も多く43人（34.7%）であり、次いで「入りたい部活動がなかった/ないから・興味がなくなったから」が28人（22.6%）、「アルバイトなど仕事が忙しいから」が23人（18.5%）、「費用がかかるから」が16人（12.9%）であった。「その他」の回答の中には、自由記述にて「引退」や「学校に部活動自体がない」という回答が含まれていた。

グラフ16

【高校生】現在部活動を「していない」と答えた方は、その理由を教えてください。



（回答数＝高校生124、複数回答）

高校生の声

- 部活動で必要な費用が足りないことがある。
- （部活動を）する時間がない。

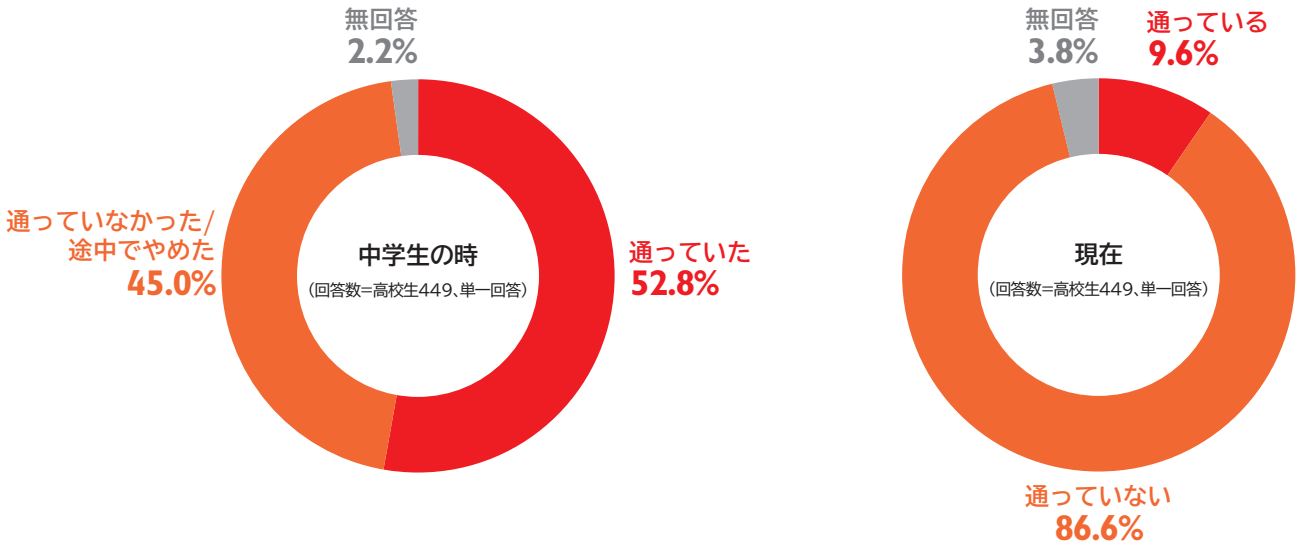
保護者の声

- 本人（子ども）はバスケットボールを小学生から続けていて、勉強と部活を両立させて頑張っていますが、練習試合や大会の移動費やユニフォームやシューズ等、必要な出費額が大きいです。進学校で勉強内容も難しいので、塾に行きたいと体験入学しましたが、月に2万円かかるようで、まだ我慢させています。経済的に厳しいです。
- 中学校でも同じなのですが、部活動にかかる費用が多く、中学では遠征費用が結構かかります。高校になれば合宿が年に2回ほどあり、1度の試合で5万円くらいかかります。なんとかならないか先生には相談しましたが、合宿に行けないのも1回ほどありました。部活でかかる費用はもう少し学校でも負担できないものかと思いました。

4-5　通塾状況

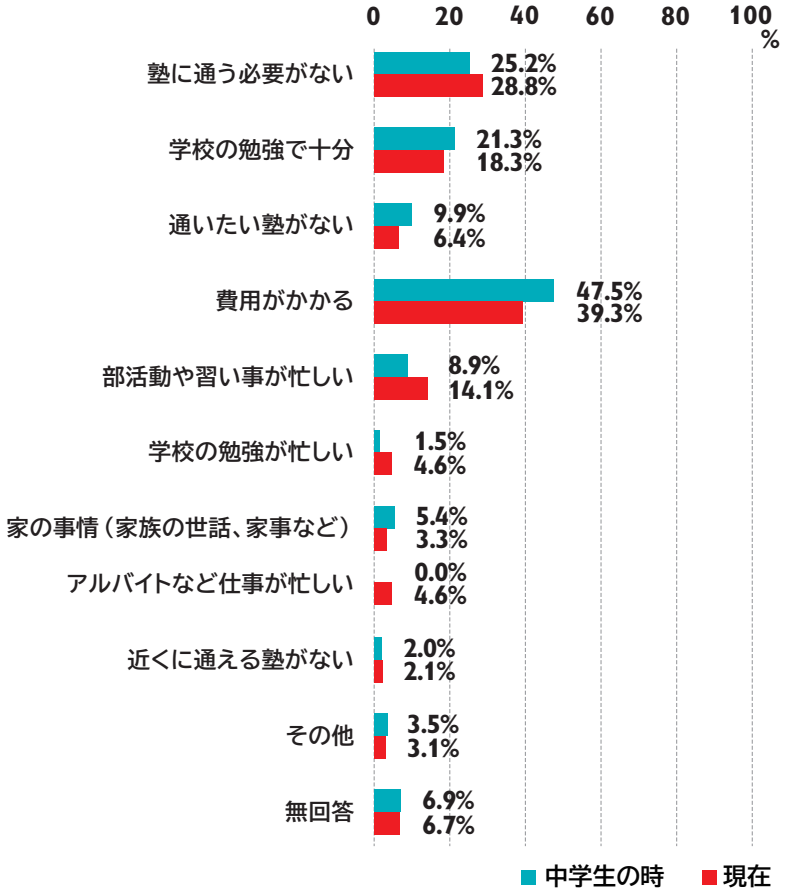
高校生に、「中学生の時」に塾に通っていたか、また「現在」通っているかどうかを聞いたところ、本調査に回答した449人のうち、中学生の時は「通っていた」が237人（52.8%）、「通っていなかった/途中でやめた」が202人（45.0%）であり、現在は「通っている」が43人（9.6%）、「通っていない」が389人（86.6%）であった。

グラフ17　【高校生】あなたは、中学生の時塾に通っていましたか。また、現在塾に通っていますか。



また、現在塾に「通っていない」389人にその理由を聞いたところ（複数回答）、「費用がかかるから」が153人（39.3%）で最も多く、次いで「塾に通う必要がないから」が112人（28.8%）であった。中学生の時に関しても同様の傾向が見られた。

グラフ18 【高校生】「通っていなかった/途中でやめた」「通っていない」と答えた方は、その理由を教えてください。



（回答数=高校生202（中学生の時）・389（現在）、複数回答）

高校生の声

- 親の収入が少ないため、塾に行きたいが行けない。
- 無料で大学生が勉強を教えてくれる機会がもっと定期的にあれば良い。

保護者の声

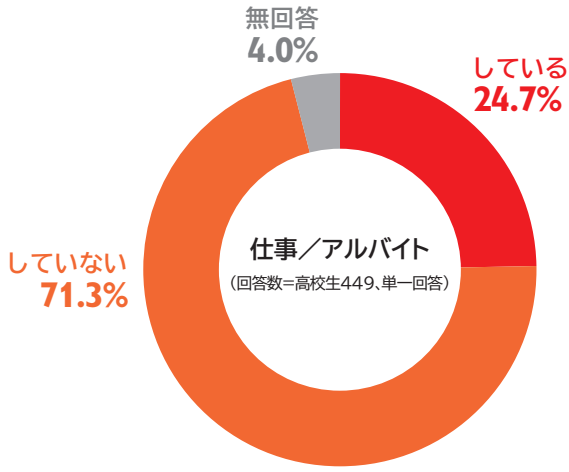
- 子どもが塾に通いたいらしいのですが、月謝が高いため中学2年生から中学3年生までは行かせていたのですが、高校に入ってからはなかなか行かせられない。
- 高校に入学するために塾に通い始め、その頃から経済的にとても大変になりました。いろいろな支援もありますが、申し込みから開始するまでとても時間がかかり、有効に使うことができませんでした。「今大変だなぁ」と思う頃に、間に合わないです。
- 塾などの費用を無料にして欲しい。金額が高くて継続できない。

4-6　仕事やアルバイトの状況

高校生に、「あなたは、仕事やアルバイトをしていますか」と聞いたところ、本調査に回答した449人のうち、111人（24.7%）が「している」と回答した。学年別に見ると、1年生164人のうち11人（6.7%）、2年生166人のうち56人（33.7%）、3・4年生115人のうち42人（36.5%）がアルバイトをしている。

グラフ19

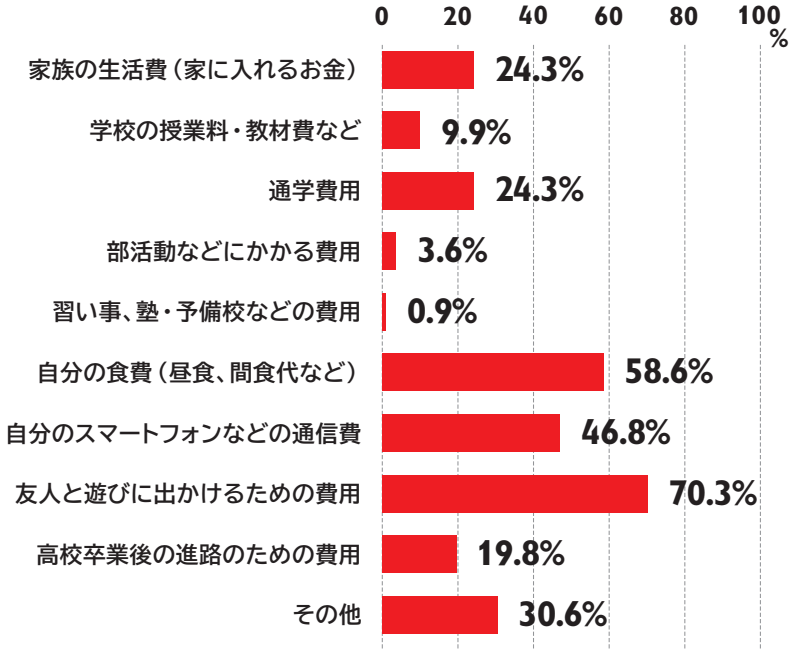
【高校生】あなたは、仕事やアルバイトをしていますか。



仕事やアルバイトをしている高校生111人に「毎月の仕事・アルバイト代の使い道（そのための貯蓄も含みます）」を聞いたところ、「友人と遊びに出かけるための費用」と回答した高校生が78人（70.3%）と最も多く、次いで「自分の食費（昼食、間食代など）」が65人（58.6%）、「自分のスマートフォンなどの通信費」が52人（46.8%）であり、自分の生活費のためにアルバイトをしている高校生が多い。また、27人（24.3%）が「家族の生活費（家に入れるお金）」、同じく27人（24.3%）が「通学費用」にアルバイト代を充てている。

グラフ20

【高校生】毎月の仕事・アルバイト代の使い道（そのための貯蓄も含みます）を教えてください。



（回答数=高校生111、それぞれ回答欄に金額を記入）

高校生の声

- 学校生活はすごく楽しいのですが、母親一人の収入なのでアルバイトをして家計を助けたい為、遊ぶ時間が少ないです。
- 親が生活に苦しいみたいでバイトを始めたけれど、学校とバイトは辛いです。
- もう少し学生がバイトをできる場所を増やしてほしい。
- 高校を卒業するまでに、専門学校の費用、生活費、自動車免許証費を自分で稼がないといけないけど、部活が1人で辞めづらいから、アルバイトの始め時を見失った。

保護者の声

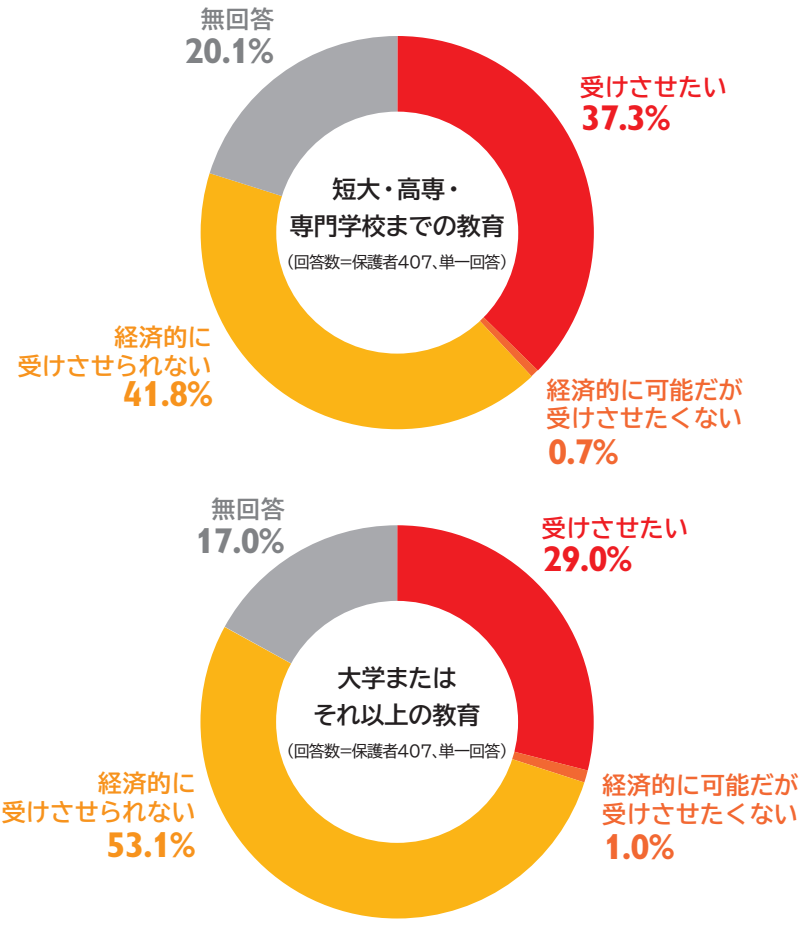
- 生活費、特に住宅費（家賃）の負担が大きくて困っています。そのため子どもに関わる教育費や小遣いに費用が回らず、子どもにアルバイトで賄ってもらっています。ですので住宅費軽減支援や奨学支援があったら良いと思います。

5. 高校卒業後の進路について

5-1 保護者が子どもに受けさせたい教育段階

保護者に、「お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか」と聞いたところ、本調査に回答した407人のうち、「短期大学・高等専門学校・専門学校までの教育」については、「受けさせたい」と回答した保護者は152人（37.3%）、「経済的に受けさせられない」と回答した保護者は170人（41.8%）であった。「大学またはそれ以上の教育」では、「受けさせたい」が118人（29.0%）、「経済的に受けさせられない」が216人（53.1%）であった。

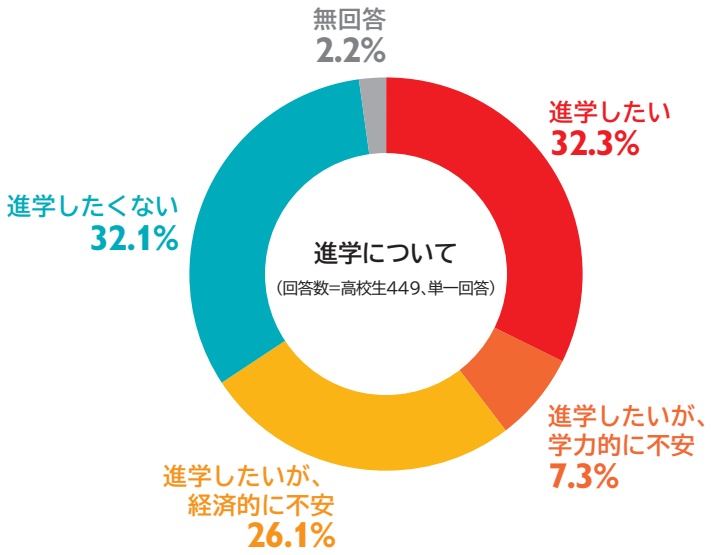
グラフ21 【保護者】お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。



5-2 高校生が希望する進路

高校生に、「あなたは、高校卒業後、進学したいですか」と聞いたところ、本調査に回答した449人のうち、「進学したい」と回答した高校生は145人（32.3%）、「進学したくない」は144人（32.1%）、「進学したいが、経済的に不安がある」は117人（26.1%）、「進学したいが、学力的に不安がある」が33人（7.3%）であった。

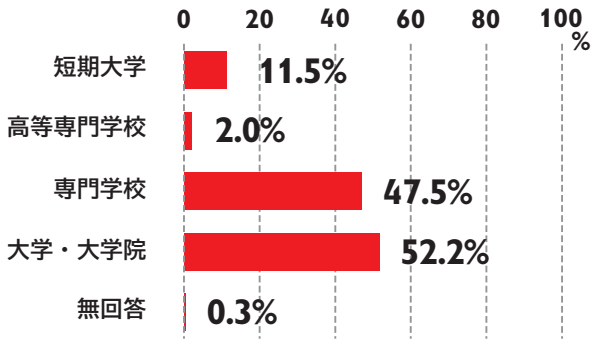
グラフ22　【高校生】あなたは、高校卒業後、進学したいですか。



「進学したい」「進学したいが、学力的に不安がある」「進学したいが、経済的に不安がある」と回答した高校生295人に進学したい学校を聞いたところ（複数回答）、「大学・大学院」と回答した高校生は154人（52.2%）、「専門学校」は140人（47.5%）、「短期大学」が34人（11.5%）、「高等専門学校」が6人（2.0%）であった。

グラフ23

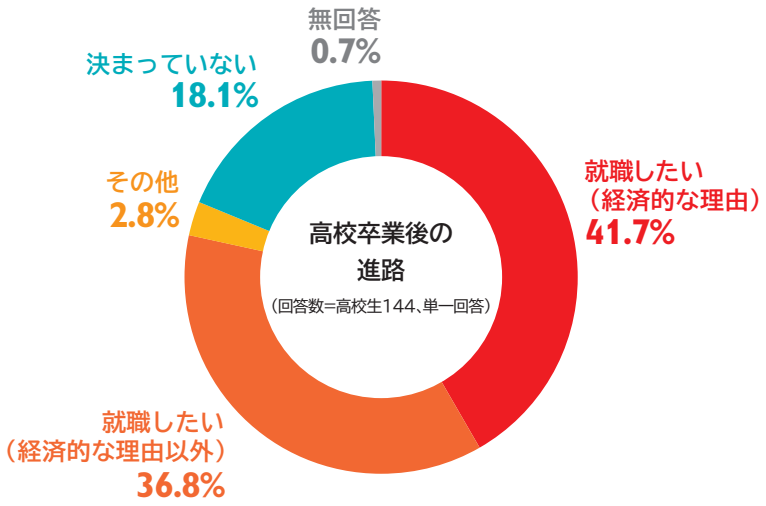
【高校生】進学したいと答えた方は、
進学したい学校を教えてください。



（回答数=高校生295、複数回答）

「進学したくない」と回答した高校生144人に高校卒業後の進路について聞いたところ、「経済的な理由で、高校を卒業したらすぐに就職したい」と回答した高校生は60人（41.7%）、「経済的な理由以外で、高校を卒業したらすぐに就職したい」が53人（36.8%）と、就職を希望している高校生が約8割であり、「決まっていない」が26人（18.1%）であった。

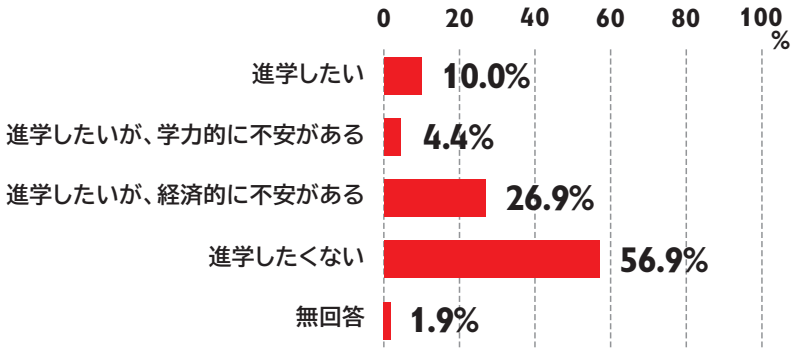
グラフ24　【高校生】「進学したくない」と答えた方は、高校卒業後の進路について教えてください。



5-3　経済的に進学が難しい世帯における高校生の進路意識

保護者が「短期大学・高等専門学校・専門学校」と「大学またはそれ以上」の両方ともに「経済的に受けさせられない」と回答した世帯の高校生160人のうち、91人（56.9%）が高校卒業後「進学したくない」と回答し、66人（41.3%）が「進学したい」「進学したいが、学力的に不安がある」「進学したいが、経済的に不安がある」のいずれかを選択した。

グラフ25　【保護者×高校生】経済的理由で子どもに高校卒業後進学させられないと回答した世帯の高校生の進路に関する意識。



（回答数=高校生160、単一回答）

高校生の声

- 大学の費用、いけるかどうか。本当は芸大に行きたい。美術を勉強して美大へ進みたいが、費用がかかりすぎて行けない。自分の夢を諦めざるを得ないこともある。
- 大学の進学に対して、授業料が高かったり、近くに大学が少ないので選べる大学の範囲が狭まる。
- 進学をしたいが、親に迷惑をかけるのが心配。
- お金のことについて不安です。母が福祉関係の仕事に就いていて、体力消費が激しく、収入は少なめなようです。あまり母に負担はかけたくありませんが、私は大学に進学したいというジレンマに陥っています。

保護者の声

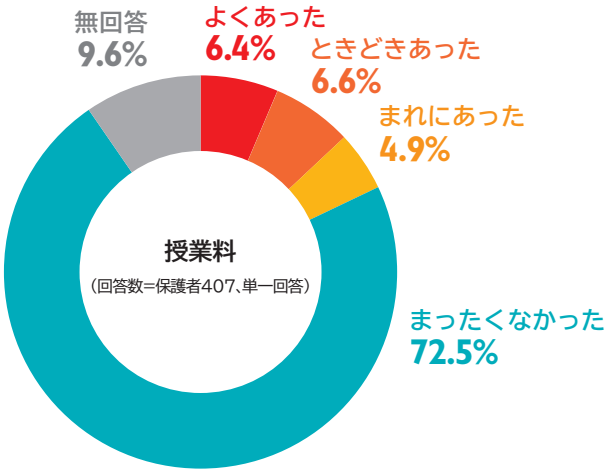
- 現在(子どもが)高校2年生ですが、卒業後の進路について進学希望ですが、経済面で不安です。低所得の家庭でも安心して進学できる社会環境であって欲しいと考えます。
- 経済的に収入が少ないので、この先進学など興味があることにどれくらい協力してあげられるか、悩んだりすることがあります。
- 専門学校や大学など、お金がかかりすぎる。行かせたくても今の状態では進学させられない。
- 息子が無事に就職できるか不安です。やりたい事を見つけて、その仕事に就けることができると良いと思っているが、本人も母の金銭的困難な状況を把握しているので、遠慮したり妥協したりして、進学をしないと言っている様子がある。
- 子ども達が進学したいと思い、考えた時、これ程のお金がかかってしまうことに驚愕しました。子どもは素直に現状を考え、進学先を選ぶようになりました。仕方のないことなのでしょうが、可能性を小さくしてしまっているようで、親として申し訳ない気持ちでいっぱいです。

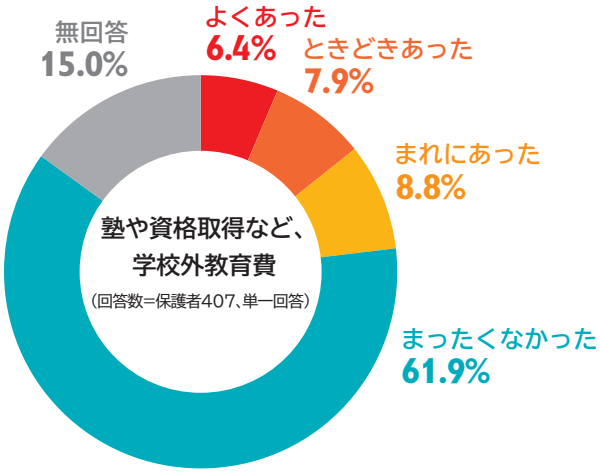
6. 高校生活にかかる経費の家計負担と高校生等奨学給付金

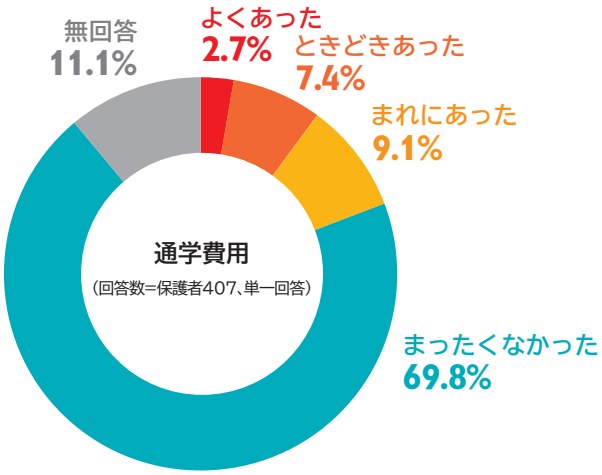
6-1 高校生活(教育)にかかる経費

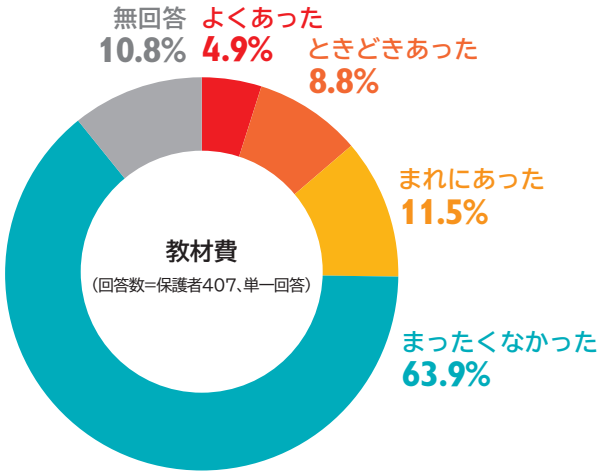
保護者に、子どもが高校生になってから、授業料や学校外でかかる教育費、通学費用、教材費、部活動の費用、修学旅行費が支払えないことがあったかを聞いたところ、本調査に回答した407人のうち、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」との回答が、「教材費」で25.2%、「塾や資格取得など、学校外でかかる教育費」で23.1%、「修学旅行費」で20.3%、「部活動の費用」で20.1%、「通学費用」で19.2%、「授業料」で17.9%あった。

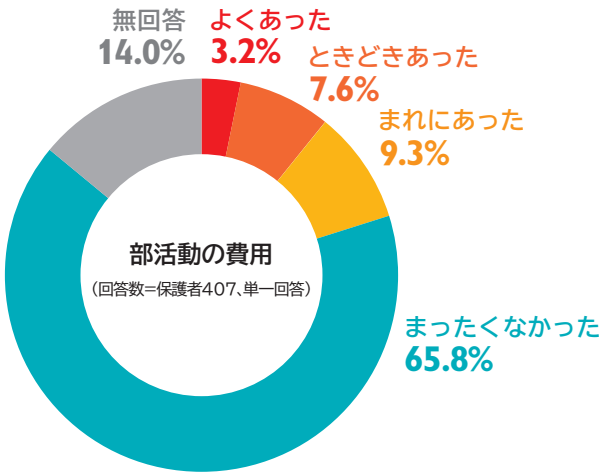
グラフ26　【保護者】あなたの世帯では、子どもが高校生になってから、
次の費用が支払えないことがありましたか。

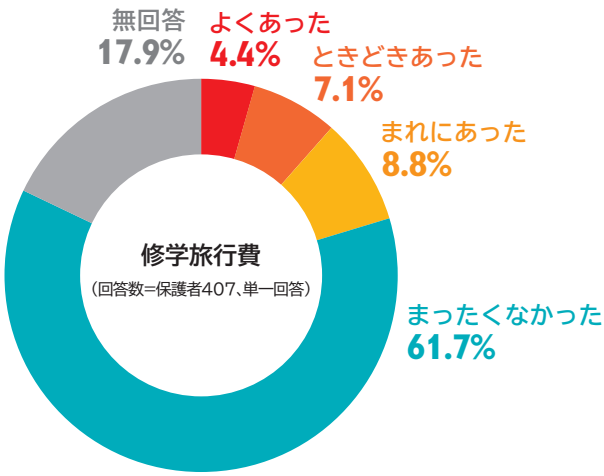












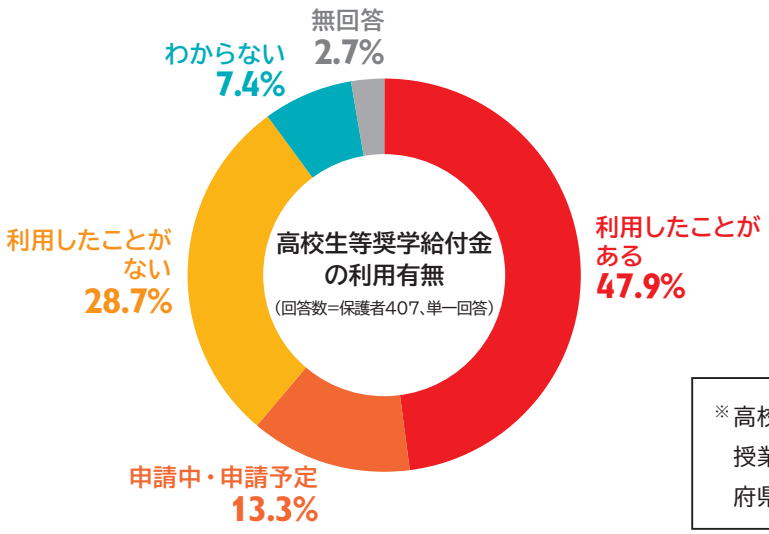
保護者の声

- 学校の授業料以外でかかるお金が多すぎる。
- 高校に入学してからの3ヶ月ほどは、教材費等の集金などもあり、家計にかなりの負担がありました。
- 修学旅行費の支払い方法。9万2千円と高額です。
- 来年度になると、本人の妹が高校入学予定のため、高校生が2人になります。入学にかかる費用から教材費等が2人分になるため、支払えるのかが心配です。

6-2 高校生等奨学給付金※の利用状況

本調査に回答した保護者407人のうち、195人(47.9%)が高校生等奨学給付金を「利用したことがある」、54人(13.3%)が「申請中・申請予定」、147人(36.1%)が「利用したことがない」「わからない」と回答した。

グラフ27 **【保護者】あなたの世帯は、高校生等奨学給付金を利用したことがありますか。**

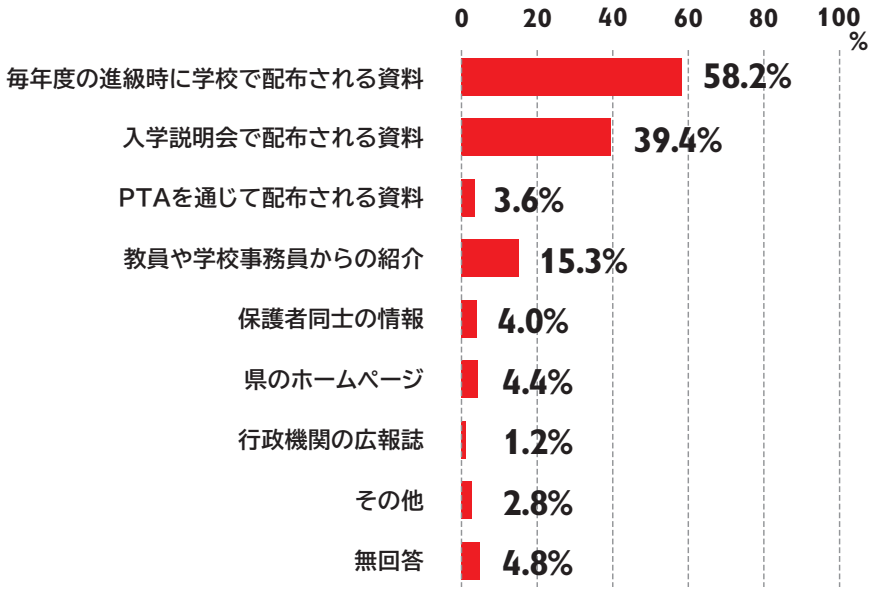


※高校生等奨学給付金:
授業料以外の教育費負担を軽減するために、都道府県が実施する給付金。

6-3 高校生等奨学給付金の認知経路

高校生等奨学給付金を「利用したことがある」または「申請中・申請予定」と回答した保護者249人に「高校生等奨学給付金について、どこで知りましたか」と聞いたところ(複数回答)、145人(58.2%)が「毎年度の進級時に学校で配布される資料」と答えた。次いで、98人(39.4%)が「入学説明会で配布される資料」と回答した。

グラフ28　【保護者】「利用したことがある」「申請中・申請予定」と答えた方は、高校生等奨学給付金について、どこで知りましたか。

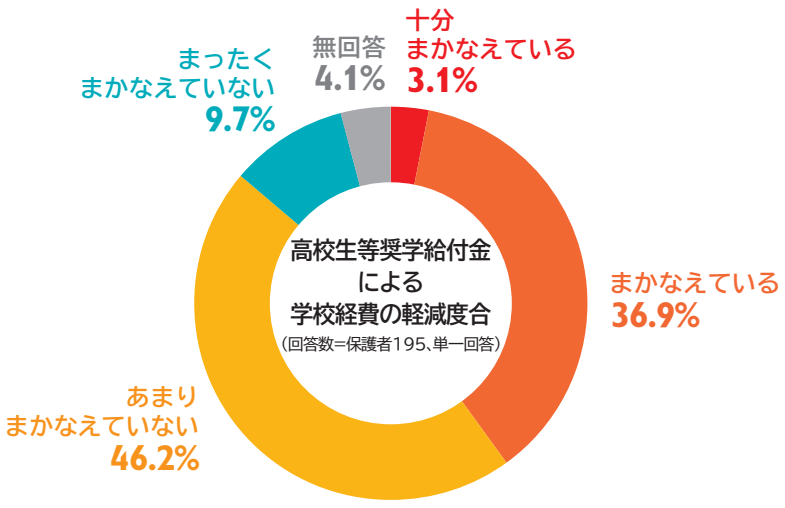


（回答数＝保護者249、複数回答）

6-4　高校生等奨学給付金による高校生活にかかる経費の軽減度

高校生等奨学給付金を「利用したことがある」と回答した保護者195人に、給付金によって学校にかかる経費をまかなえているかを聞いたところ、「あまりまかなえていない」が90人（46.2%）と最も多く、次いで「まかなえている」が72人（36.9%）であった。「あまりまかなえていない」と「まったくまかなえていない」19人（9.7%）を合わせると、109人（55.9%）であり、過半数の保護者が高校生等奨学給付金では学校にかかる経費をまかなえていないことがわかった。

グラフ29　【保護者】「利用したことがある」と答えた方は、高校生等奨学給付金によって、学校にかかる経費をまかなえていますか。

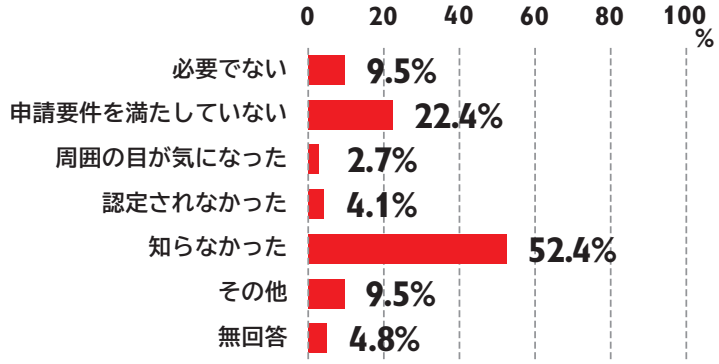


6-5　高校生等奨学給付金を利用していない理由

高校生等奨学給付金を「利用したことがない」「わからない」と回答した147人に利用していない理由を聞いたところ（複数回答）、77人（52.4%）が「高校生等奨学給付金を知らなかった」、33人（22.4%）が「申請しなかった（必要だが、申請要件を満たしていないため）」と回答した。

グラフ30

【保護者】「利用したことがない」「わからない」と答えた方は、高校生等奨学給付金を利用していない理由を教えてください。

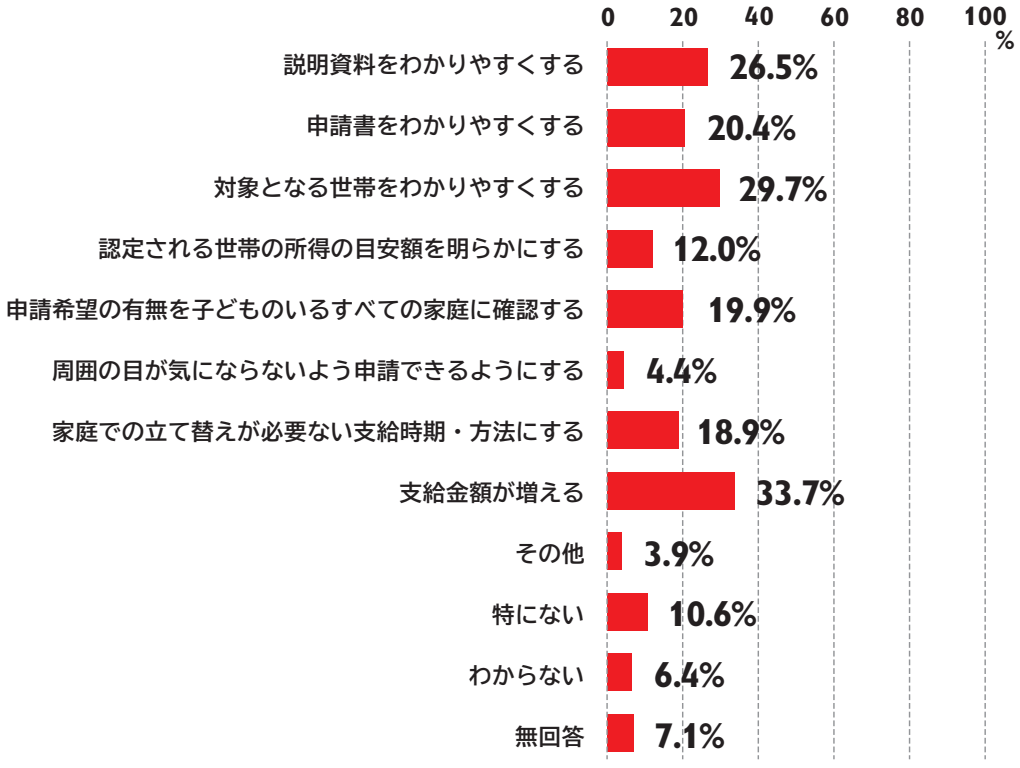


（回答数＝保護者147、複数回答）

6-6　高校生等奨学給付金の改善点

本調査に回答した保護者407人のうち309人（75.9%）が、「高校生等奨学給付金について、改善してほしい点」があると答えた。具体的な改善点（複数回答）については、「支給金額が増える」が最も多く137人（33.7%）で、次いで「対象となる世帯をわかりやすくする」が121人（29.7%）、「説明資料をわかりやすくする」が108人（26.5%）であった。

グラフ31　**【保護者】高校生等奨学給付金について、改善してほしい点はどのようなものですか。**



（回答数＝保護者407、複数回答）

保護者の声

- 学校から案内が来なければ対象外ということだと思うが、そういう給付金があるというお知らせだけでも毎年欲しい。
- 学校で昼休みなどに集められることなく、保護者に郵便にして欲しい。
- 子どもの気持ちの負担になっているのではと少し心配。
- 進学前（入学前）が一番お金がかかるので、制服など買う前に支給されれば助かると思う。
- 入学時、進級時に例えば4月にすぐ支給を受けられるようにして欲しいです。
- 申請、給付月は学校の納付金がある月に支給になるようにしてほしい。
- 入学してすぐ、4月末に5万円以上の校納金を払えなかった。実際その時期は物理的に無理でしょう。
- いつもお金が足りなくて困っている。今生活するお金が足りなくて困っているのに、前払いして後から振り込みはしんどい。
- 数ヶ月をまとめて給付ではなく、毎月の給付だととても助かる。
- 児童手当、児童扶養手当の支給時期以外の月（の支給を希望）。
- 所得制限がもう少し緩いと良い。非課税ではなくてもそれに近い人がいるので。
- 貰える所得の範囲をもう少し広くしてほしい。

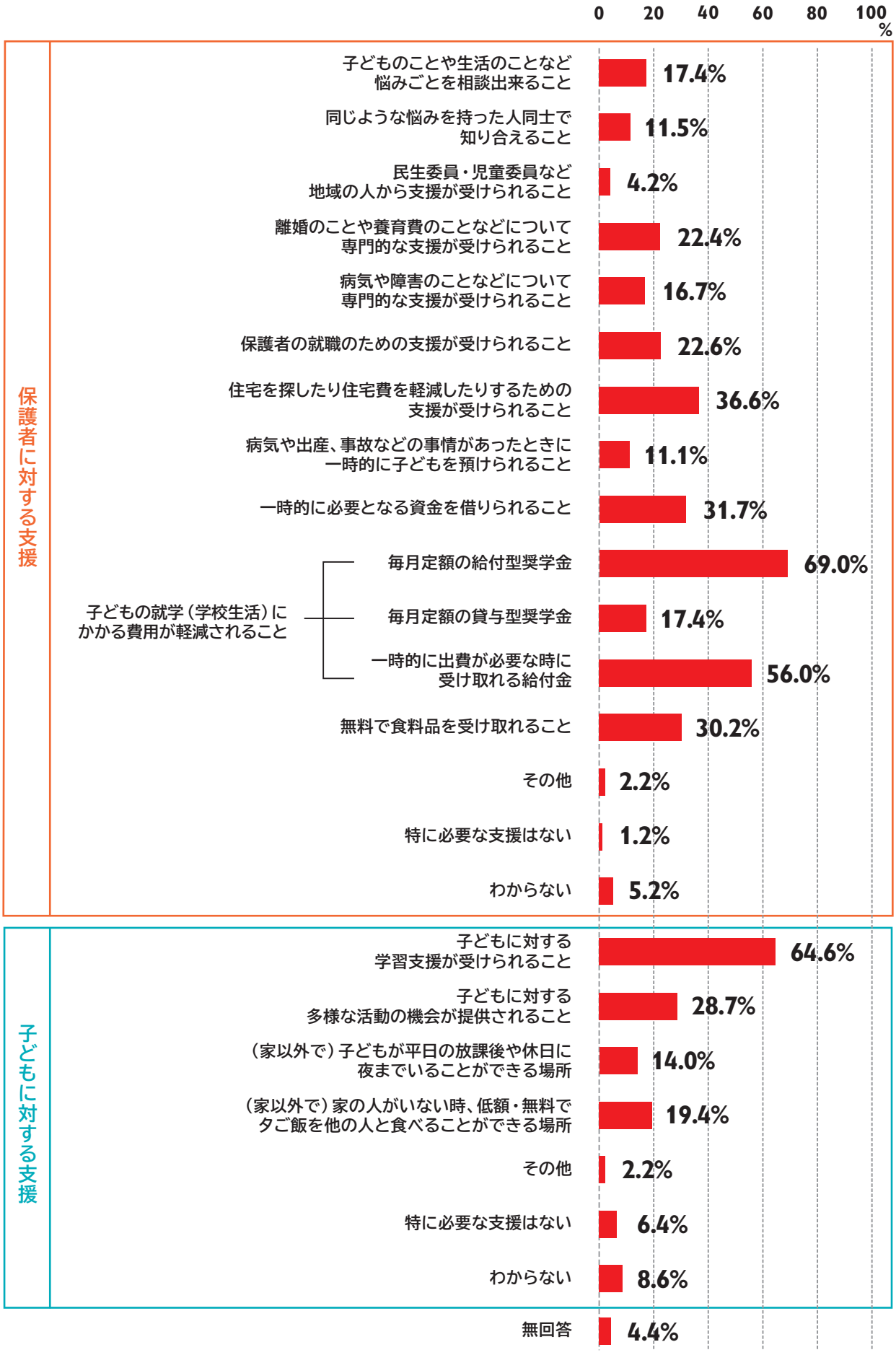
7. 経済的に困難な状況にある世帯の保護者や高校生が求める支援

7-1 保護者が求めている支援と効果的な周知方法

保護者に、子どもや子育てに関して、使ってみたい場所やサービスを聞いたところ（複数回答）、本調査に回答した407人のうち、保護者に対する支援では、子どもの就学にかかる費用軽減として、「毎月定額の給付型奨学金」が281人（69.0%）と最も多く、次いで「一時的に出費が必要な時に受け取れる給付金」が228人（56.0%）、「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援が受けられること」が149人（36.6%）であった。

また、子どもに対する支援では、「子どもに対する学習支援が受けられること」が263人（64.6%）と最も多く、次いで「子どもに対する多様な活動の機会が提供されること」が117人（28.7%）、「（家以外で）家の人がいない時、低額・無料で夕ご飯を他の人と食べることができる場所」が79人（19.4%）であった。

グラフ32　【保護者】あなたは、子どもや子育てに対して、以下のような場所やサービスがあれば使ってみたいと思いますか。



（回答数=保護者407、複数回答）

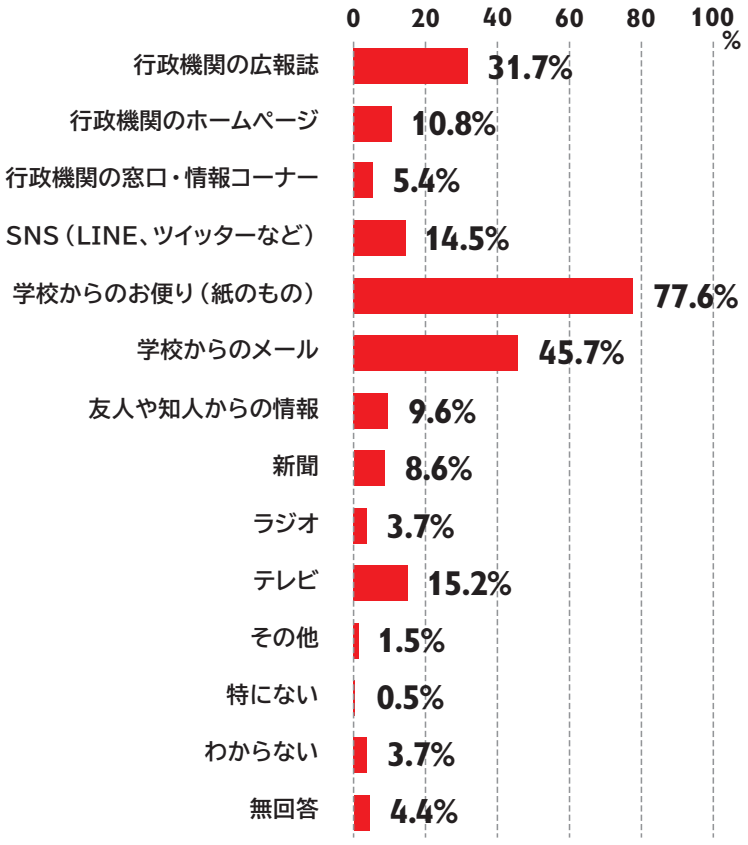
保護者の声

- 大学に限らず、資格等を取得するための検定料を所得により軽減して欲しい。
- 高校生の就職、進学に向けての準備金などが無利子でも良いから借りられるお金が増えれば良いと思う。返さなくても良い給付金などがあればもっとありがたい。
- 給付型の奨学金が少ない。申請条件の枠が狭すぎて（被災者でないとダメなど）申請したくてもできない。貸与型は、受けたとしても返済を考えると借金を増やすだけなので、返済目途が付かず借りられない。
- 近くに学校以外で勉強ができる場所。図書館等は断られることが多い。
- 子どもがいても安心して働ける仕事などの求人情報などがあると助かります。働いてみて、子どもとの生活時間などが合わないと転職続きになってしまうため。仕事探しには苦労します。
- 大学に進学させてあげたいのですが、正直とても不安です。市でも支援などの申請ができる情報などを定期的に教えてくれたらと思います。
- 本当に援助が必要な人ほど受けられない、受けていないということが多いと聞きます。世間の目を気にせずに利用できるような環境が整ってくれたらと思います。
- 行政が行う貧困家庭への一時的（入学などによる）貸し付け→担当者によって「身の丈に合った進学を」などと言われ、貸し付けを受けるまでに保証人、学校、本人（子ども）との面談があり、子どもが心的ストレスを受けてしまう。

また、保護者に、「子どもに関する施策や支援等の情報を受け取る場合、どのような方法が効果的だと思いますか」と聞いたところ（複数回答）、本調査に回答した407人のうち、「学校からのお便り（紙のもの）」が316人（77.6%）と最も多く、次いで「学校からのメール」が186人（45.7%）、「行政機関の広報誌」が129人（31.7%）であった。

グラフ33

【保護者】子どもに関する施策や支援等の情報を受け取る場合、どのような方法が効果的だと思いますか。

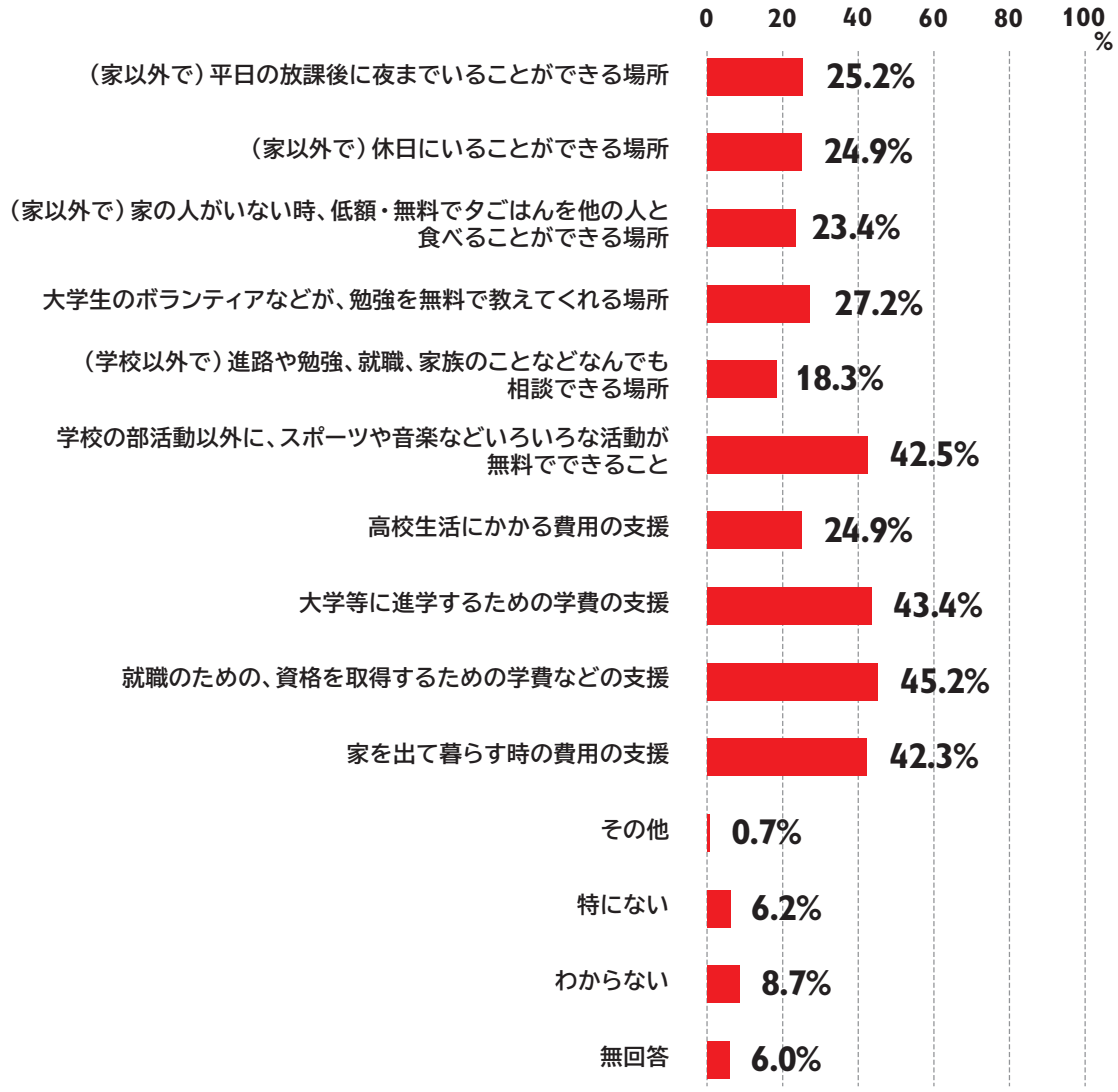


（回答数=保護者407、複数回答）

7-2 高校生が求めている支援

高校生に対しても同様に、使ってみたい場所やサービスを聞いたところ（複数回答）、本調査に回答した449人のうち、203人（45.2%）が「就職のための、資格を取得するための学費などの支援」、195人（43.4%）が「大学等に進学するための学費の支援」、190人（42.3%）が「家を出て暮らす時の費用の支援」といった進路のための支援を、191人（42.5%）が「学校の部活動以外に、スポーツや音楽などいろいろな活動が無料でできること」を選択した。「高校生活にかかる費用の支援」112人（24.9%）の中には、通学費用や部活動の費用の支援を求める声があった。

グラフ34　【高校生】あなたは、以下のような場所やサービスがあれば使ってみたいと思いますか。



（回答数＝高校生449、複数回答）

高校生の声

- 学校の教室を開放して、大学生のボランティアなどが勉強を無料で教えてくれる機会を、夏休みや冬休みだけでなく土日や放課後に行ってもらいたい。
- 近くで読書や自習のために無料で時間を過ごせる施設があったら良い。今は近場にそのような場所がなく、あったとしても交通の便が悪い。
- 地域に気軽に立ち寄ることができる場所（勉強、スポーツ）があれば良いなと思います。
- 地方だとどうしても就く職業に制限がある。都会ほど選べる仕事がない。

Ⅳ. 提言

本調査結果を通じて、石巻市における経済的に困難な状況にある高校生の生活実態の一部を把握することができた。本調査の調査対象である「給付型緊急子どもサポート ～高校生活応援キャンペーン～」受給世帯の多くが、子どもが中学生から高校生になると家計が苦しくなったことや、対象世帯の過半数において、食料・衣類が買えなかったことがあるといった家計の逼迫が見られた。また、所有物や体験、進路に制約があったり、部活動や進学のための塾などを経済的理由で諦めたりしている高校生も少なくなかった。県が実施している高校生等奨学給付金は、経済的に困難な状況にある世帯が利用しているものの、給付額が学校にかかる費用をまかなえていないという世帯が半数を超えており、また、制度自体を知らない保護者も存在した。そして、保護者と高校生それぞれが、生活やその後の進路について多様な支援を求めていることも明らかとなった。

こうした状況に鑑み、セーブ・ザ・チルドレンは、①高校生の生活実態の把握、②高校生等奨学給付金の見直し、③高校生の状況にあわせた多様な支援の3点に関して、関係省庁や地方自治体が速やかに対策を講じるよう、以下の通り提言する。

提言1　国および自治体は、子どもの貧困対策の観点から、高校生の生活実態を把握し、当事者である高校生の声を反映させた支援策を立案すべきである。

子どもの貧困対策のために各自治体が実施している子どもの生活実態調査の対象は主に義務教育段階である小中学生の子どもがいる世帯であり、高校生の子どもがいる世帯であることは少ない。高校生活にかかる費用は小中学生に比べて高く、公的支援も薄くなるため家計の負担が増大するにもかかわらず、高校生活の実態は十分に調査されていない。

本調査では石巻市における高校生を調査対象としたが、対象者はセーブ・ザ・チルドレンの給付金受給者と限られている。経済的に困難な高校生の実態をより包括的に把握するためには国や地方自治体が調査を実施し、高校生や保護者の声に真摯に耳を傾ける必要がある。国や自治体が高校生に対する調査を実施する際には、本調査などの先行事例を参照されることを求める。

また、高校生がいる世帯の調査においても、対象は保護者が多く、高校生自身への調査を実施している自治体は少ないため、高校生が自分の意見を政策に反映できる機会が少ないのが現状である。子どもの権利条約は、子どもがその子どもに影響を及ぼすすべての事柄について、自由に意見を表明する権利を保障するよう求めている※1。また、子どもの権利委員会は、とりわけ思春期の子どもに焦点を当てた一般的意見において「各国は、学校ならびにコミュニティ、地方、国および国際社会の各レベルで、思春期の子どもの生活に影響を与えるすべての関連の立法、政策、サービスおよびプログラムの策定、実施および監視に思春期の子どもが関与することを確保する」ことを要請している※2。しかし、現在日本では、思春期年代である高校生の生活に影響を与える立法、政策、サービスおよびプログラムなどに対して高校生が意見を述べる機会が十分に確保されているとは言えない。

以上のことから、セーブ・ザ・チルドレンは国や自治体に対して、高校生の生活実態を把握し、高校生の声を反映させた支援策を立案することを求める。

※1　子どもの権利条約12条（意見表明権）
※2　平野裕二訳　子どもの権利委員会・一般的意見20号「思春期における子どもの権利の実施」　パラグラフ23
https://www26.atwiki.jp/childrights/pages/274.html

提言2　高校生等奨学給付金制度の支給金額や周知・申請方法に関して、早急に改善に取り組むべきである。

本調査において、保護者の4分の1が経済的な理由により子どもに高校就学を続けさせられない可能性があると回答し、高校生等奨学給付金を利用したことのある保護者のうち約5割が学校にかかる経費をまかなえていないと回答した。

文部科学省によれば、全日制の公立高校において、保護者が支出した年間学校教育費のうち授業料を除いた金額は1人あたり252,623円※であるのに対し、高校生等奨学給付金の年間の給付額は非課税世帯の第1子において、80,800円となっている。加えて、2018年の会計検査院の調査においては、高校生等奨学給付金を受給している世帯の中に、授業料以外に学校が徴収する教育費を支払えていない高校生がいること、さらには教育費未納を理由に除籍などの処分を受けた高校生もいることが明らかとなった。

本調査で得られた高校生等奨学給付金について改善してほしい点についての意見の中でも、支給金額の増額を求める声が最も多く、実態とあった給付額の設定が必要である。文部科学省をはじめ、国が高校生等奨学給付金の支給金額の見直しに早急に取り組むよう求める。

また、本調査では制度を利用していない理由として高校生等奨学給付金を知らなかったことを挙げた保護者が最も多く、周知・申請方法の改善も求められる。

文部科学省の調査結果より、2016（平成28）年度には私立高校生約2万人の受給漏れがあったことが明らかになっている。また、2017（平成29）年度文部科学省委託事業である高校生等への修学支援の効果及び影響等に関する調査研究によると、「生徒への直接の案内文章の配布で、ほとんどすべての高校（98.4%）が周知を図っている」が、「全生徒に案内を文書で配布・案内」している学校は国公立で69.6%、私立で37.2%にとどまっている。また、同研究によると申請書類を出さなかった生徒への学校による働きかけに関して、「全員揃うまで督促」を行なっている学校は52.9%であった。

本調査で保護者の情報収集の手段として最も効果的だと考えられているのは学校からの配布物であることからも、まずは、全生徒への文書の配布・案内を徹底すべきである。さらに、保護者が制度を「知らなかった」という状況をなくすために、案内のみならず、申請書の提出も全員対象にすることが望まれる。

このような改善が図れるよう、国や都道府県が周知・申請方法の効果的な指針を示し教職員向けの研修を実施するなど、支援を必要とするすべての世帯が利用しやすい制度となるように対策を講ずることを求める。

※ 文部科学省「平成28年度子供の学習費調査」

提言3　経済的に困難な状況にある高校生に対し、高校生の状況にあわせた多様な支援を講ずるべきである。

本調査結果から、高校生およびその保護者が必要としている支援は多岐にわたることが確認された。

まず、保護者と高校生どちらも、必要とする支援として、経済的支援が最も多く選ばれた。保護者に関しては、子どもの就学にかかる費用を軽減するため、毎月定額の奨学金や、一時的に出費が必要な時に受け取れる給付金への要望があがった。高校生が選択した割合が最も高かったのは、就職のための資格取得にかかる費用への支援である。大学進学への費用や、家を出て生活する際の経済的支援に対しても、同じように高い割合で要望があがっている。

この調査結果からセーブ・ザ・チルドレンは、高校生の生活や希望進路を幅広く支えるために、国や自治体が経済的支援を充実させることを求める。高校生の資格取得に必要な受験料等の補助や進学のための給付型奨学金、高校卒業後に自立する際に必要な生活資金の援助など、経済的な負担を軽減するために、多様な対策が考えられる。また、高校生を身近で支えることができる学校が、教材費や部活動にかかる費用などを見直して就学費用の軽減を図ったり、高校生が利用できる既存の公的支援がより多くの必要としている高校生に伝わるような対策を講じることも必要だ。

また、経済的支援の他にも、高校生が望む支援として、「学校の部活動以外に、スポーツや音楽などいろいろな活動が無料でできること」があげられ、保護者も子どもに対する多様な機会や学習支援の提供を望む声がある。家庭・学校に次ぐ高校生の「第3の居場所」として、地域の大学生が運営する中高生世代の集いの場や、高校生の居場所となるカフェが高校内につくられるなどの動きが広まりつつある。調査対象地域である石巻市では、児童館である「石巻市子どもセンター」が中高生世代の居場所となり、運動や音楽を楽しんだり、子どもたちが企画・運営するイベントなどが行われている。無料で誰でも利用できる児童館など既存の公的な子ども関連施設が果たす役割を、高校生世代が利用しやすいよう見直すこともできるだろう。このような居場所は高校生が使ってみたいと思えるような場所でなければ機能しない。よって、すでに取り組みを始めている自治体や学校、施設に学び、全国にこのような動きが広がるよう官民で協力を進めるよう求める。

高校生への多様な支援を展開するためには、提言①で述べたように高校生自身の声を聴くことが必要だ。国や自治体は、高校生の声に耳を傾け、どのような施策ができるか検討し、支援を講じるべきである。

Ⅴ. 結び

本調査は、石巻市においてセーブ・ザ・チルドレンが実施した高校生を対象とした給付金事業の受給者を対象に実施し、高校生の生活実態がどのようになっているのかを把握することができた。本調査で確認された経済的に困難な状況にある高校生およびその保護者の現状は、石巻市にとどまらず、全国の他の地域でも参考になるだろう。

セーブ・ザ・チルドレンは、これまで2016年から3年にわたり、小中高校の新入学時に給付金を提供し、給付金受給世帯に対してアンケート調査を実施している。今回初めて、保護者のみではなく、給付金を受給した高校生にも調査を実施し、高校生の声を報告書にまとめた。本調査に回答した高校生からは、「このようなアンケートを今の高校生全体からとることによって、次の世代の高校生に繋がる良い機会になると思いました」「アンケートなどを頻繁にとって、状況を確かめることは良いと思う」「高校生活について悩んでいることや心配なことを、とても素直に書けたので良かったです」「困っている人の気持ちを少しでも楽にさせてあげることができる、いいアンケートだと思いました！」といった感想が集まった。高校生自身も調査で自分の意見を表明できたことは意義あるものだと感じており、調査を通して高校生の意見を聞くこと自体が高校生自身のエンパワーメントにつながると考えられる。また、本調査に伴い、「自分たちのことについて話したり、意見を伝えたりできる機会があれば、高校生活について感じることや思うことを話してみたいと思うか」と聞いたところ、約3割が「話してもよい」と答えた。高校生に対する支援の拡充のためにも、高校生が自分に関わる問題について自分の思いや考えを伝えることのできる機会を増やしていく必要がある。

セーブ・ザ・チルドレンは、子どもの貧困問題解決に向けて、高校生の就学に関する経済的負担を少しでも軽減する給付金提供を実施するとともに、高校生自身が自らの意見を伝えられるような機会の提供に継続して取り組んでいく。

調査から明らかになったこと

首都大学東京　人文社会学部教授 兼 子ども・若者貧困研究センター長
阿部 彩

この度、国際NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（以下、セーブ・ザ・チルドレン）が行った宮城県石巻市における「給付型緊急子どもサポート ～高校生活応援キャンペーン～」の対象の高校生（以下、対象者）とその保護者に対する調査は、高校生年齢の経済的困難を抱えている子どもたちの生活の現状を理解するための貴重な資料です。本調査に関わらせていただき、その調査結果を拝見した上で、本調査から明らかになったことを改めて整理すると、以下にまとめられます。

1.「高校生活応援キャンペーン」の対象家庭の生活困難

本キャンペーンの対象者の子どもとその家庭は、日本の一般の子どもたちに比べて経済的困難を抱えていると言えます。例えば、「過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか」という質問において、「よくあった」と答えている率が8.8%、「ときどきあった」が25.3%となっていますが、この割合は、東京都「子供の生活実態調査」[1] における16-17歳の回答（「よくあった」0.6%、「時々あった」2.5%）に比べると10倍以上であり、東京都調査における「困窮層」（東京都調査の生活困難度が下位7%にあたる）とほぼ同じとなっています。他の生活困難を表す設問の回答傾向を見ても、東京都調査の困窮層または周辺層（合わせて「生活困難層」。東京都調査では下位20%）と同程度となっており、本キャンペーン対象者は生活困難を抱えていると言えます。

彼らの生活困難は、進学といった将来の夢を閉ざすだけでなく、現在の子どもの生活に多大な影響を及ぼしています。部活動をあきらめなくてはいけない、医療機関に行く余裕がない、子どもが通いたい塾や習い事に通わせることができない、などの声が上がっています。このような金銭的な制約は多くの子育て世帯が抱えるものですが、本キャンペーン対象世帯においてはその度合いと広がりが大きいと言えます。保護者の約4分の1は、進学どころか、高校の就学を続けられない可能性を危惧しています。

1　東京都が首都大学東京子ども・若者貧困研究センターに委託して行った調査。都内4自治体の小学5年生、中学2年生、16-17歳の子ども本人とその保護者が対象。

2. 高校生時期の方が、中学生時期よりも生活が厳しい

保護者の自己評価による家計の状況を中学生時と高校生時をくらべると、高校生時期の方が中学生時期に比べ生活が苦しくなったと答える人が多くなっています。中学生時期は記憶による回答なので、バイアスがかかっている可能性は否めませんが、義務教育から高等学校に進学し、教育費のみならず子どもの生活費も増加し、家計が厳しくなることが示唆されます。特に、高校生活において、就学に係わる費用として授業料以外の費目（通学費、教材費、部活費、修学旅行費など）の出費が多く、本調査の回答者の1割以上がこれらの費用が払えなかったことが「よくあった」「ときどきあった」と答えています。高校無償化の政策の流れの中で、高校生等奨学給付金など支援策も改善してきていますが、これらが十分ではない現状が垣間見られます。

3. 進学希望と経済的不安

このような厳しい経済状況にあっても、本キャンペーン対象者の子どもの保護者の大多数は子どもを「短大・高専・専門学校」や「大学またはそれ以上」の教育を受けさせたいと考えています。しかし、4割の保護者は「短大・高専・専門学校」を、5割の保護者は「大学またはそれ以上」の教育を「経済的に受けさせられない」と答えています。また、高校生自身も32.3%が「進学したい」と答えている一方、26.1%が「進学したいが、経済的に不安がある」と答えています。保護者が高等教育を「経済的に受けさせられない」と考えている家庭においても、4割の高校生は進学希望があります。家庭の経済状況によって、子どもの進学の道が閉ざされている状況です。

本調査は、一自治体、また、セーブ・ザ・チルドレンが実施している「高校生活応援キャンペーン」の対象者のみを調査対象としているものです。彼らの背後には、幾万もの生活困難を抱えている高校生がいると考えられます。本調査からわかったことを基に、高校生に対するさらなる支援策の拡充に繋がることを願います。

「給付型緊急子どもサポート ～高校生活応援キャンペーン～」 概要

【対象者】

次の要件1～4のいずれかにあてはまる世帯で、本キャンペーン申請時に宮城県石巻市に在住している高校生※（住民票住所が石巻市内）

1 生活保護を受けている世帯

2 生活保護が過去1年以内に停止または廃止された世帯

3 保護者（ふたり親家庭の場合父母双方）の市民税が非課税の世帯

4 児童扶養手当の支給を受けている世帯

※高校は、国公立および私立、フリースクール、高等専門学校（1～3年）、定時制（1～4年）も含みます。

【給付内容】

高校生一人につき、夏休みの学習や文化・スポーツ活動、修学旅行、資格取得、進学・就職に向けた準備等に関し、
5万円を支給（返還の必要なし）

【実施方法】

主に宮城県教育庁を通じて、県内国公私立高等学校等に案内。2018年6月～8月に申請された書類について、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン内で審査を行った上、給付金を支給。

【実施結果】

459人（411世帯）

世帯数	人数								
	高1		高2		高3		高4		計
411世帯	男	90	男	77	男	57	男	2	226
	女	80	女	94	女	58	女	1	233
	計	170	計	171	計	115	計	3	459

【実施者】

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

① 保護者向け

Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン

給付型緊急子どもサポート ～高校生活応援キャンペーン～
保護者向けアンケート ご協力のお願い

2018 年 6 月吉日
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

保護者の皆様へ

セーブ・ザ・チルドレンは、すべての子どもにとって、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現されている世界を目指し、世界約 120 ヶ国で活動する子ども支援専門の国際 NGO です。宮城県石巻市では、東日本大震災発生直後から、行政や地域と連携しながら、子どもたちのために、子どもたちとともに活動してきました。

今回、高校生に対する行政の施策や民間の取り組みの充実につなげたり、高校生活を送るための支援の重要性を広く社会に伝えたりするために、本キャンペーンに認定された世帯のみなさまから、高校生活を送る上でかかる費用やご家庭の状況、求められている支援等について、直接ご意見を伺うアンケートを実施させていただきます。

ご回答はすべて集計し、統計的に処理するため、個人が特定される形で公表されることはありません。以下の回答にあたっての注意をお読みいただき、アンケートにぜひご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

※ このアンケートは本キャンペーンによる給付とは関係ありません。任意でご回答ください。

～回答にあたっての注意～

- ✧ **高校生活応援キャンペーンに申請された保護者の方が、ご回答ください。**
- ✧ この調査は**無記名**です。
- ✧ ご回答は、質問番号の順番に、鉛筆か黒または青のボールペンでご記入ください。
- ✧ **お答えになりたくない質問には、無回答のまま、次の質問にお進みください。**
- ✧ 「アンケート」は、**「① 保護者向け」「② 高校生向け」の 2 種類**があります。それぞれ指定の封筒（①保護者向けは青色、②高校生向けはピンク色）に入れ、封をして「給付振込依頼書」「通帳のコピー1 部」とともに、**同封の返信用封筒（一番大きな茶色の封筒）でご返送**ください。（切手不要）

【アンケートについてのご意見・お問い合わせ】

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 国内事業部
高校生活応援キャンペーン調査担当
Tel：03-6859-6869、FAX：03-6859-0069、E-mail：japan.soap@savethechildren.org

＊個人情報が書かれていた場合について

アンケートに記入された個人情報は、本調査のために利用し、当会が責任を持って管理・保管し、回答者の承諾なく第三者に個人情報を提供することはありません。ただし、本調査の集計に関して、当会が個人情報の守秘義務契約を結んだ企業に、業務の一部として個人情報の取り扱いを委託する場合がありますが、この場合にも、皆様の個人情報は当会の個人情報保護原則のもとで保護されます。当会のプライバシーポリシーはこちらをご覧ください。 http://www.savechildren.or.jp/privacy_policy/

給付型緊急子どもサポート ～高校生活応援キャンペーン～

① 保護者向けアンケート

※このアンケートのなかの「お子さん」とは、高校生活応援キャンペーンの対象のお子さんを指します。

＜あなたのこと、あなたの世帯について＞

問 1 お子さんとあなた（回答者）との関係は、以下のどれにあたりますか。お子さんから見た続柄で、お答えください。

（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

① 母親	② 父親	③ 祖母	④ 祖父	⑤ その他（具体的に： ）

問 2 お住まいの地区について教えてください。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

① 石巻地区	② 河北地区	③ 河南地区	④ 桃生地区	⑤ 雄勝地区
⑥ 北上地区	⑦ 牡鹿地区	⑧ その他（具体的に： ）		

問 3 お子さんの親について、教えてください。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

① 結婚している（事実婚含む）	② 離婚（別居中含む）	③ 死別
④ 未婚・非婚	⑤ その他（具体的に： ）	

問 4 お子さんと生計を共にしている方（世帯員）の人数を教えてください（あなたとお子さんも含む）。
また、そのうち、子どもの人数（学年は 2018 年 7 月時点）を教えてください。（枠内に数字で回答してください）

世帯員人数（あなたを含めて）	その内	乳幼児	小学 1～3 年生	小学 4～6 年生	中学生	高校生	その他の子ども（2000/4/2 生まれ以降）
人	→	人	人	人	人	人	人

問 5 世帯員全員について、本キャンペーンの対象のお子さんからみた続柄を教えてください。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

① 対象のお子さんの母親	② 対象のお子さんの父親	③ 対象のお子さんの祖母
④ 対象のお子さんの祖父	⑤ 対象のお子さんの兄弟姉妹	⑥ その他（具体的に： ）

問 6 現在お住まいの住居の形態は、次のどれが最もよくあてはまりますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

① 持ち家（自分所有）	② 持ち家（家族所有）	③ 市営・県営住宅
④ 災害公営住宅	⑤ 仮設住宅	⑥ 民間アパート・貸家
⑦ 間借り	⑧ その他（具体的に： ）	

問 7 世帯員のうち、お子さんを養育している人の就業状況についてお答えください。（それぞれ、あてはまる番号 1 つを記入してください）

母親・養育者（女性）	[ ]	父親・養育者（男性）	[ ]
① 正社員	② 契約社員・派遣社員	③ パート・アルバイト	
④ 自営業	⑤ 専業主夫・専業主婦	⑥ 学生	
⑦ 無職	⑧ その他	⑨ 世帯員にいない	

＜お子さんについて＞

問 8 本キャンペーン対象のお子さんの学年を教えてください。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

① 1 年	② 2 年	③ 3 年	④ 4 年

問 9 お子さんの高校就学について、心配なことはありますか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

① 経済的な理由により就学を続けられない可能性がある
② 家庭の事情により就学を続けられない可能性がある
③ 本人の理由（不登校、成績不振等）により就学を続けられない可能性がある
④ 学校までの距離が長く、通学が困難
⑤ その他（具体的に： ）
⑥ 特にない

問 10　お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。（それぞれ、あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

短期大学・高等専門学校・専門学校までの教育	① 受けさせたい　② 経済的に可能だが受けさせたくない ③ 経済的に受けさせられない
大学またはそれ以上の教育	① 受けさせたい　② 経済的に可能だが受けさせたくない ③ 経済的に受けさせられない

問 11　お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったのに、実際には受診させなかったことがありますか。中学生の時と高校生になってからについて、それぞれお答えください。（それぞれ、あてはまる番号 1 つに○をつけてください）
また、②「受診しなかったことがある」と答えた方は、その理由を教えてください。

受診しなかったことがありますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）		**②「受診しなかったことがある」理由**（下の表の選択肢 A～F からあてはまるものをすべて選んで、【 】内に記入してください）	
中学	① ない（必ず受診した）		
	② 受診しなかったことがある	理由【　　】	F「その他」の場合（具体的に：　　）
高校	① ない（必ず受診した）		
	② 受診しなかったことがある	理由【　　】	F「その他」の場合（具体的に：　　）

理由	A 病院や診療所に連れて行く時間がなかったため
	B 身体上の理由で、病院や診療所まで行くことが困難であったため
	C 病院や診療所までの距離が遠く、通院することが困難であったため
	D 公的医療保険に加入しておらず、医療費を支払うことが難しいため
	E 公的医療保険に加入はしていたが、病院や診療所の窓口で医療費を支払うことが難しいため
	F その他

＜子育てにかかる費用について＞

問 12　次の A～F の費用は、どのくらいかかっていますか。平均的な金額を教えてください。 また、 その費用を、本キャンペーン対象のお子さん自身は、アルバイト収入などから負担していますか。お子さんが負担している金額をお答えください。まったく費用がかからない、お子さんがまったく負担していない場合は、0 とご記入ください。（枠内に数字で回答してください）

キャンペーン対象のお子さんの	**1 ヶ月あたりの費用**	**そのうち、お子さんの負担している金額**
A 授業料	円	円
B 塾や資格取得など、学校外でかかる教育費	円	円
C 通学費用	円	円
キャンペーン対象のお子さんの	**1 年間あたりの費用**	**そのうち、お子さんの負担している金額**
D 教材費	円	円
E 部活動の費用	円	円
F 修学旅行費	円	円

問 13　あなたの世帯では、次の A～F の費用が支払えないことがありましたか。お子さんが中学生の時と高校生になってからについて、お答えください。（右下の表①～④の中からあてはまる番号を選び、それぞれ【 】内に記入してください）

	中学	高校
A 授業料	【　　】	【　　】
B 塾や資格取得など、学校外でかかる教育費	【　　】	【　　】
C 通学費用	【　　】	【　　】
D 教材費	【　　】	【　　】
E 部活動の費用	【　　】	【　　】
F 修学旅行費	【　　】	【　　】

① よくあった
② ときどきあった
③ まれにあった
④ まったくなかった

問 14 あなたの世帯は、次のような公的年金、社会保障給付金を受けていますか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

① 児童手当	② 児童扶養手当	③ 年金（遺族年金、老齢年金など）	④ 生活保護

問 15 あなたの世帯は、非課税世帯ですか。（あてはまる番号１つに○をつけてください）

① 非課税（均等割・所得割両方）	② 非課税（所得割のみ）
③ 非課税だが①か②のどちらかわからない	④ 課税

＜高校生等奨学給付金について＞

※「高校生等奨学給付金」は、**授業料以外**の教育費負担を軽減するために、**県が実施する給付金**です。
※授業料を支援するための高等学校等**就学支援金ではありません。**

問 16 あなたの世帯は、高校生等奨学給付金を利用したことがありますか。（あてはまる番号１つに○をつけてください）

① 利用したことがある（生活保護受給世帯）→問 16-1 へ	② 利用したことがある（非課税世帯）→問 16-1 へ	
③ 申請中・申請予定 →問 16-1 へ	④ 利用したことがない →問 16-3 へ	⑤ わからない →問 16-3 へ

問 16 で①②「利用したことがある」、③「申請中・申請予定」と答えた方にお聞きします。

問 16-1 高校生等奨学給付金について、どこで知りましたか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

① 毎年度の進級時に学校で配布される資料	② 入学説明会で配布される資料
③ PTA を通じて配布される資料	④ 教員や学校事務員からの紹介
⑤ 保護者同士の情報	⑥ 県のホームページ
⑦ 行政機関の広報誌	⑧ その他（具体的に：　　）

問 16 で①②「利用したことがある」と答えた方にお聞きします。

問 16-2 高校生等奨学給付金によって、学校にかかる経費をまかなえていますか。（あてはまる番号１つに○をつけてください）

① 十分まかなえている	② まかなえている	③ あまりまかなえていない	④ まったくまかなえていない

問 16 で④「利用したことがない」、⑤「わからない」と答えた方にお聞きします。

問 16-3 高校生等奨学給付金を利用していない理由を教えてください。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

① 申請しなかった（必要でないため）	④ 申請したが、認定されなかった
② 申請しなかった（必要だが、申請要件を満たしていないため）	⑤ 高校生等奨学給付金を知らなかった
③ 申請しなかった（必要だが、周囲の目が気になったため）	⑥ その他（具体的に：　　）

すべての方にお聞きします。

問 16-4 利用状況にかかわらず、高校生等奨学給付金について、改善してほしい点はどのようなものですか。

（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

① 説明資料をわかりやすくする	② 申請書をわかりやすくする
③ 対象となる世帯をわかりやすくする	④ 認定される世帯の所得の目安額を明らかにする
⑤ 申請希望の有無を子どものいるすべての家庭に確認する	
⑥ 周囲の目が気にならないよう申請できるようにする（具体的に：　　）	
⑦ 家庭での立て替えが必要ない支給時期・方法にする（具体的に：　　）	
⑧ 支給金額が増える	
⑨ その他（具体的に：　　）	
⑩ 特にない	⑪ わからない

<あなたのご家庭での生活について>

問 17　暮らしの状況をどのように感じていますか。お子さんが中学生の時と現在についてそれぞれお答えください。

（それぞれ、あてはまる番号 1 つを記入してください）

お子さんが中学生の時	[　　]	現在	[　　]
① 大変ゆとりがある　② ややゆとりがある　③ 普通　④ やや苦しい　⑤ 大変苦しい			

問 18 ご家庭の家計について、最も近いものをお答えください。お子さんが中学生の時と現在についてそれぞれお答えください。

（それぞれ、あてはまる番号 1 つを記入してください）

お子さんが中学生の時	[　　]	⑥「その他」の場合（具体的に：　　）
現在	[　　]	⑥「その他」の場合（具体的に：　　）
① 赤字であり、借金をして生活している		④ 黒字であるが、貯蓄はしていない
② 赤字であり、貯蓄を取り崩している		⑤ 黒字であり、毎月貯蓄をしている
③ 赤字でも、黒字でもなく、ぎりぎりである		⑥ その他

問 19 あなたのご家庭では、過去 1 年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料や衣類を買えないことがありましたか。

（それぞれ、あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

食料	① よくあった	② ときどきあった	③ まれにあった	④ まったくなかった
衣類	① よくあった	② ときどきあった	③ まれにあった	④ まったくなかった

問 20 過去 1 年の間に、経済的な理由で、以下の A～G のサービス・料金について、支払えないことがありましたか。

（それぞれ、あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

	あった	なかった	該当しない（払う必要がない）
A 電話料金	1	2	3
B 電気料金	1	2	3
C ガス料金	1	2	3
D 水道料金	1	2	3
E 家賃	1	2	3
F 住宅ローン	1	2	3
G その他の債務	1	2	3

問 21 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。（それぞれ、あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

	している	していない	
		したくない（方針でしない）	経済的にできない
A 毎月お小遣いを渡す	1	2	3
B 毎年新しい洋服・靴を買う	1	2	3
C 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる	1	2	3
D 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）	1	2	3
E お誕生日のお祝いをする	1	2	3
F 1 年に 1 回くらい家族旅行に行く	1	2	3
G クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	1	2	3
H 子どもの学校行事などへ親が参加する	1	2	3

問 22 次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

① 子どもの年齢に合った本	⑨ 電子レンジ
② 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ	⑩ 電話（固定電話・携帯電話を含む）
③ 子どもが自宅で勉強をすることができる場所	⑪ インターネットにつながるパソコン
④ 洗濯機	⑫ 新聞の定期購読（ネット含む）
⑤ 炊飯器	⑬ 世帯専用のおふろ
⑥ 掃除機	⑭ 世帯人数分のベッドまたは布団
⑦ 暖房機器	⑮ 急な出費のための貯金（５万円以上）
⑧ 冷房機器	⑯ あてはまるものはない

＜必要な支援について＞

問 23 子どもに関する施策や支援等の情報を受け取る場合、どのような方法が効果的だと思いますか。

（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

① 行政機関の広報誌	⑥ 学校からのメール	⑪ その他
② 行政機関のホームページ	⑦ 友人や知人からの情報	（具体的に： ）
③ 行政機関の窓口・情報コーナー	⑧ 新聞	⑫ 特にない
④ SNS（LINE、ツイッターなど）	⑨ ラジオ	⑬ わからない
⑤ 学校からのお便り（紙のもの）	⑩ テレビ	

問 24 あなたは、子どもや子育てに対して、以下のような場所やサービスがあれば使ってみたいと思いますか。

（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

保護者に対する支援	① 子どものことや生活のことなど悩みごとを相談出来ること ② 同じような悩みを持った人同士で知り合えること ③ 民生委員・児童委員など地域の人から支援が受けられること ④ 離婚のことや養育費のことなどについて専門的な支援が受けられること ⑤ 病気や障害のことなどについて専門的な支援が受けられること ⑥ 保護者の就職のための支援が受けられること ⑦ 住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援が受けられること ⑧ 病気や出産、事故などの事情があったときに一時的に子どもを預けられること ⑨ 一時的に必要となる資金を借りられること ⑩ 子どもの就学（学校生活）にかかる費用が軽減されること（毎月定額の給付型奨学金） ⑪ 子どもの就学（学校生活）にかかる費用が軽減されること（毎月定額の貸与型奨学金） ⑫ 子どもの就学（学校生活）にかかる費用が軽減されること（一時的に出費が必要な時に受け取れる給付金） ⑬ 無料で食料品を受け取れること ⑭ その他（具体的に： ） ⑮ 特に必要な支援はない　⑯ わからない
子どもに対する支援	⑰ 子どもに対する学習支援が受けられること ⑱ 子どもに対する多様な活動の機会が提供されること ⑲ （家以外で）子どもが平日の放課後や休日に夜までいることができる場所 ⑳ （家以外で）家の人がいない時、低額・無料で夕ご飯を他の人と食べることができる場所 ㉑ その他（具体的に： ） ㉒ 特に必要な支援はない　㉓ わからない

問 24-1 上記問 24 の場所やサービスの中で最も重要だと思うものを３つまで選んでください。

（あてはまる番号を１つずつ【 】内にお書きください）

１番重要	【 】	２番目に重要	【 】	３番目に重要	【 】

問 25 差支えない範囲で、あなたがいま悩んでいることや心配なこと、困っていること、誰かに相談したいと思っていること、社会に伝えたいことを具体的に教えてください。

アンケートは以上です。ご協力いただき、ありがとうございました。

◆アンケートにご回答いただいた方の中で、より詳しくお話をお聞かせいただける方は、下記にお名前と連絡先をご記入ください。全員の方とは限りませんが、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンよりご連絡を差し上げます。

お名前：

TEL：　　E-Mail：

② 高校生向け

Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン

給付型緊急子どもサポート ～高校生活応援キャンペーン～
高校生向けアンケート ご協力のお願い

2018 年 6 月吉日
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

高校生のみなさんへ

こんにちは、子ども支援専門の国際 NGO セーブ・ザ・チルドレンです。私たちは、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」の実現を目指して、世界約 120 か国で活動しています。宮城県石巻市では、2011 年から、子どもたちのために活動してきました。

今回、高校生活にかかわる行政や民間の取り組みを良くしていくことにつなげたり、みなさん自身が感じていること、考えていることを広く社会に伝えたりするために、高校生と保護者のみなさんから、高校生活を送る上でかかる費用や高校生活の様子、必要な支援等について、直接意見をきくアンケートをお願いしています。

ご回答はすべて集計し、統計的に処理するので、個人が特定される形で公表されることはありません。以下の「回答にあたって」の注意をお読みいただき、ぜひご協力をお願いします。

※このアンケートは、本キャンペーンによる給付とは関係ありません。任意でご回答ください。

～回答にあたって～

- ✧ この調査は、**高校生のみなさんがご自分で書いてください。**ご家族の方に見せる必要はありません。みなさんの代わりにほかの人が答えることはしないでください。
- ✧ この調査は無記名ですので、**名前は書かないでください。**
- ✧ ご回答は、質問番号の順番に、鉛筆か黒または青のボールペンでご記入ください。
- ✧ 自分の思う答えを書いてください。まちがった答えや、正しい答えはありません。答えが思いうかばない場合や答えたくない質問は、そのまま飛ばして次に進んでください。
- ✧ 全部書き終わったら、自分で高校生用の封筒（ピンク色）に入れて、封をしてください。それを保護者の方の封筒と一緒に、返送用の大きい封筒に入れて郵便で送ってください。

【アンケートについてのご意見・お問い合わせ】
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
国内事業部 高校生活応援キャンペーン調査担当
Tel：03-6859-6869、FAX：03-6859-0069、E-mail：japan.soap@savethechildren.org

＊個人情報が書かれていた場合について

アンケートに記入された個人情報は、本調査のために利用し、当会が責任を持って管理・保管し、回答者の承諾なく第三者に個人情報を提供することはありません。ただし、本調査の集計に関して、当会が個人情報の守秘義務契約を結んだ企業に、業務の一部として個人情報の取り扱いを委託する場合がありますが、この場合にも、皆様の個人情報は当会の個人情報保護原則のもとで保護されます。当会のプライバシーポリシーはこちらをご覧ください。 http://www.savechildren.or.jp/privacy_policy/

給付型緊急子どもサポート ～高校生活応援キャンペーン～

② 高校生向けアンケート

Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン

＜あなたのことについて＞

問１ あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号１つに○をつけてください）

① 男子	② 女子	③ その他	④ 答えたくない

問２ あなたの学年を教えてください。（あてはまる番号１つに○をつけてください）

① １年	② ２年	③ ３年	④ ４年

＜学校・進路のことについて＞

問３ あなたが通っている高等学校等について、教えてください。

問３－１ 設置区分（あてはまる番号１つに○をつけてください）

① 公立（県立・市立）	② 国立	③ 私立	④ その他（具体的に： ）

問３－２ 種類（あてはまる番号１つに○をつけてください）

① 全日制高校	② 定時制高校	③ 通信制高校	④ 特別支援学校	⑤ 高等専門学校
⑥ 専修学校	⑦ その他（具体的に： ）			

問３－３ 学科（あてはまる番号１つに○をつけてください）

① 普通科	② 工業科	③ 商業科	④ 水産科	⑤ その他（具体的に： ）

問４ あなたはこれまでに以下のような理由で、学校をやめたくなるほど悩んだことがありますか。

（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

① 勉強についていけない	⑨ 経済面（部活動などにかかる費用の支払）
② 遅刻や欠席などが多く進級できそうにない	⑩ 経済面（友人つきあいなどに要する費用）
③ 学校とは別に他にやりたいことがある	⑪ 経済面（生活に余裕がない）
④ 体調不良・精神的に不安定	⑫ 経済的理由でのアルバイト等の時間確保による通学困難
⑤ 友人関係のトラブル	⑬ 早く経済的に自立したい
⑥ 経済面（授業料・教材費などの支払）	⑭ その他
⑦ 経済面（通学費用の支払）	（具体的に： ）
⑧ 経済面（修学旅行費等の支払）	⑮ 学校をやめたくなるほど悩んだことはない

問５ あなたは、高校卒業後、進学したいですか。（あてはまる番号１つに○をつけてください）

① 進学したい →問６へ	③ 進学したいが、経済的に不安がある →問６へ
② 進学したいが、学力的に不安がある →問６へ	④ 進学したくない →問７へ

問６ 問５で①②③「進学したい」と答えた方は、進学したい学校を教えてください。

（あてはまる番号すべてに○をつけてください）

① 短期大学	② 高等専門学校	③ 専門学校	④ 大学・大学院

問７ 問５で④「進学したくない」と答えた方は、高校卒業後の進路について教えてください。

（あてはまる番号１つに○をつけてください）

① 経済的な理由で、高校を卒業したらすぐに就職したい
② 経済的な理由以外で、高校を卒業したらすぐに就職したい
③ その他（具体的に： ）
④ 決まっていない

＜あなたの普段の生活について＞

問８　あなたは、次の A~L の物品を持っていますか。それぞれ、あなたの状況に最も近いものに○をつけてください。

（それぞれ、あてはまる番号１つに○をつけてください）

	持っている	持ちたいが持っていない	持ちたくないいらない
A 新しい（誰かのお古でない）洋服	1	2	3
B 最低２足のサイズの合った靴	1	2	3
C 冬用のダウンジャケット・ダウンコート	1	2	3
D 自分専用のふとんまたはベッド	1	2	3
E 家の中で勉強ができる場所	1	2	3
F インターネットにつながるパソコン	1	2	3
G 電子辞書	1	2	3
H 自分の部屋	1	2	3
I 月 5,000 円ほどの、自分で自由に使えるお金	1	2	3
J スマートフォン	1	2	3
K 友人と遊びに出かけるお金	1	2	3
L 自分に投資するお金（自己啓発本、職業訓練コースなど）	1	2	3

問９　あなたは、中学生の時部活動をしていましたか。また、現在部活動をしていますか。（それぞれ、あてはまる番号１つに○をつけてください）**また、②「していなかった/途中でやめた」「していない」と答えた方は、その理由を教えてください。**

部活動をしていましたか/していますか		**②「していなかった/途中でやめた」「していない」理由**（下の表の選択肢 A~J からあてはまるものをすべて選んで【　】内に記入してください）	
中学	① していた		
	② していなかった/途中でやめた	＜理由＞【　　】	J「その他」の場合（具体的に：　　）
現在	① している		
	② していない	＜理由＞【　　】	J「その他」の場合（具体的に：　　）

〈理由〉

A 入りたい部活動がなかった/ないから・興味がなくなったから
B 練習についていけなかった/ついていけないから
C 部内の人間関係のトラブル
D 費用がかかるから
E 塾や習い事が忙しかった/忙しいから
F 学校の勉強が忙しかった/忙しいから
G 家の事情（家族の世話、家事など）があった/あるから
H アルバイトなど仕事が忙しいから
I 通学に時間がかかった/かかるから
J その他

問10　あなたは、中学生の時塾に通っていましたか。また、現在塾に通っていますか。（それぞれ、あてはまる番号１つに○をつけてください）**また、②「通っていなかった/途中でやめた」「通っていない」と答えた方は、その理由を教えてください。**

学習塾に通っていましたか/通っていますか		**②「通っていなかった/途中でやめた」「通っていない」理由**（下の表の選択肢 A~J からあてはまるものをすべて選んで【　】内に記入してください）	
中学	① 通っていた		
	② 通っていなかった/途中でやめた	＜理由＞【　　】	J「その他」の場合（具体的に：　　）
現在	① 通っている		
	② 通っていない	＜理由＞【　　】	J「その他」の場合（具体的に：　　）

〈理由〉

A 塾に通う必要がなかった/ないから
B 学校の勉強で十分だから
C 通いたい塾がなかった/ないから
D 費用がかかるから
E 部活動や習い事が忙しかった/忙しいから
F 学校の勉強が忙しかった/忙しいから
G 家の事情（家族の世話、家事など）があった/あるから
H アルバイトなど仕事が忙しいから
I 近くに通える塾がなかった/ないから
J その他

問 11　あなたは、以下の活動をふだんどれくらいしますか。（それぞれ、あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

	毎日 2 時間以上	毎日 1～2 時間	毎日 1 時間以下	1 週間に 4～5 日	1 週間に 2～3 日	1 週間に 1 日	全然しない
A ゲーム機で遊ぶ	1	2	3	4	5	6	7
B テレビ・インターネットを見る	1	2	3	4	5	6	7
C 室内でのほかの活動	1	2	3	4	5	6	7
D 屋外での運動	1	2	3	4	5	6	7
E 家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）	1	2	3	4	5	6	7
F 兄弟姉妹の世話や祖父母の介護	1	2	3	4	5	6	7

問 12　あなたは、仕事やアルバイトをしていますか。（あてはまる番号 1 つに○をつけてください）

① している　　② していない →問 13 へ

↓

①「している」と答えた方にお聞きします。（四角の中に数字を記入してください）

問 12－1　平均して毎月どれくらいの収入がありますか。

1 か月あたり平均　約 [　　] 万 [　　] 千円

問 12－2　時給にすると、どれくらいになりますか。わからない場合は、「X　わからない」に○をつけてください。

1 時間あたり [　　] 円　　**X　わからない**

問 12－3　1 週間あたり、平均何時間働いていますか。平日と休日についてそれぞれ教えてください。

平日：　1 週間あたり [　　] 時間

休日：　1 週間あたり [　　] 時間

問 12－4　毎月の仕事・アルバイト代の使い道（そのための貯蓄も含みます）を教えてください。

（かっこの中に数字を記入してください）

A 家族の生活費（家に入れるお金）	約（　　万　　千円）
B 学校の授業料・教材費など	約（　　万　　千円）
C 通学費用	約（　　万　　千円）
D 部活動などにかかる費用	約（　　万　　千円）
E 習い事、塾・予備校などの費用	約（　　万　　千円）
F 自分の食費（昼食、間食代など）	約（　　万　　千円）
G 自分のスマートフォンなどの通信費	約（　　万　　千円）
H 友人と遊びに出かけるための費用	約（　　万　　千円）
I 高校卒業後の進路のための費用	約（　　万　　千円）
J その他	約（　　万　　千円）

＜必要な支援について＞

問 13　あなたは、以下のような場所やサービスがあれば使ってみたいと思いますか。

（使ってみたいと思う番号すべてに○をつけてください。）

① （家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所
② （家以外で）休日にいることができる場所
③ （家以外で）家の人がいない時、低額・無料で夕ごはんを他の人と食べることができる場所
④ 大学生のボランティアなどが、勉強を無料で教えてくれる場所
⑤ （学校以外で）進路や勉強、就職、家族のことなどなんでも相談できる場所
⑥ 学校の部活動以外に、スポーツや音楽などいろいろな活動が無料でできること
⑦ 高校生活にかかる費用の支援（具体的に：　　）
⑧ 大学等に進学するための学費の支援
⑨ 就職のための、資格を取得するための学費などの支援
⑩ 家を出て暮らす時の費用の支援
⑪ その他（具体的に：　　）
⑫ 特にない
⑬ わからない

問 13-1　上記問 13 の場所やサービスの中で最も重要だと思うものを 3 つまで選んでください。

（あてはまる番号を１つずつ【　】内に記入してください）

1 番重要	【　　】	2 番目に重要	【　　】	3 番目に重要	【　　】

問 14　あなたが、家庭や学校生活、住んでいる地域が「こうなればよい」と思っていることがあれば、自由に意見を書いてください。

問 15　あなたがいま悩んでいることや、心配なこと、困っていること、誰かに相談したいと思っていることがあれば、書ける範囲で具体的に教えてください。

問 16　このアンケートへの感想や、セーブ・ザ・チルドレンに伝えたいことがあれば、自由に意見を書いてください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

◆ 今後もセーブ・ザ・チルドレンは、高校生が自分たちのことについて話したり、意見を伝えたりできる機会を作っていきたいと思っています。そのような機会があったら、あなたは、高校生活について感じることや思うことを話してみたいと思いますか？

① 話してもよい　② 話したくない　③ その他（具体的に：　　）

【お問い合わせ先】
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
東京事務所 国内事業部
〒101-0047東京都千代田区内神田2-8-4　山田ビル4F
TEL：03-6859-6869　FAX：03-6859-0069
E-mail：japan.soap@savethechildren.org
http://www.savechildren.or.jp

＊本レポートに掲載している写真はすべてイメージです。